

令和3年度

**「総合的な探究の時間」の
進め方ガイドブック
(実践編)**

令和4年3月

千葉県総合教育センター

はじめに

平成30年3月に告示された高等学校学習指導要領では、学習評価の充実について新たに項目が設けられました。学習評価においては、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えた上で、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが求められています。

総合的な探究の時間の評価については、この時間の趣旨、ねらい等の特質を生かし、生徒一人一人がどのように成長しているか、資質・能力が確かに育成されているかどうかを捉え、教師が生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することにより、生徒自身が学習したことの意義や価値を実感し、自己の在り方生き方に自信をもち一層高めていけるようにすることが大切です。

本研究では、研究主題を「高等学校における探究活動に関する研究～総合的な探究の時間を通して～」として、学習指導要領の改訂の趣旨を踏まえ、各学校で総合的な探究の時間を実際に進める際に何から進めるのがよいか、生徒が何をどのように学び、学習意欲の向上を図るために教師が生徒をどのように支援するのがよいかを研究しました。

本ガイドブック（実践編）は、「総合的な探究の時間」における指導体制や指導計画、探究における四つの過程の指導方法、評価方法のポイント等について、先生方がこのガイドブックを手にとって、関心のあるページから読み進めていくことができるよう、6校の研究協力校の実践を多く盛り込んだ構成となっています。

総合的な探究の時間は、学習指導要領にある第1の目標を踏まえ、各学校が総合的な探究の時間の目標を定め、目標の実現に相応しい内容を設定します。来年度からの学習指導要領の本格的な実施に向けて、各学校において、総合的な探究の時間を進める際の一助となれば幸いです。

終わりに、本研究を進めるに当たって、御指導いただいた文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官・国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官 齋藤博伸先生、研究に協力いただいた6校の研究協力校の校長先生と研究協力員の先生方、授業実践に取り組んでいただいた研究協力校の先生方に心より感謝申し上げます。

令和4年3月

千葉県総合教育センター所長 酒井 昌史

「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック（実践編）

目 次



チーバくん

1	総合的な探究の時間	1
2	探究の過程	1
3	研究協力校の実践	2
4	令和3年度 評価の在り方についての研究	2
5	研究協力校における探究活動の取組	
(1)	県立長生高等学校における取組 【独自のテキストを活用した普通科の実践】	5
(2)	県立大原高等学校における取組 【キャリア教育に重点を置いた実践】	13
(3)	県立袖ヶ浦高等学校における取組 【ICT 機器を活用した情報科の実践】	21
(4)	県立小金高等学校における取組 【PBL (Problem Based Learning) に基づいた探究学習の実践】	29
(5)	県立浦安高等学校における取組 【探究ゼミを活かした実践】	37
(6)	県立松尾高等学校における取組 【地域との協働による探究活動の実践】	45

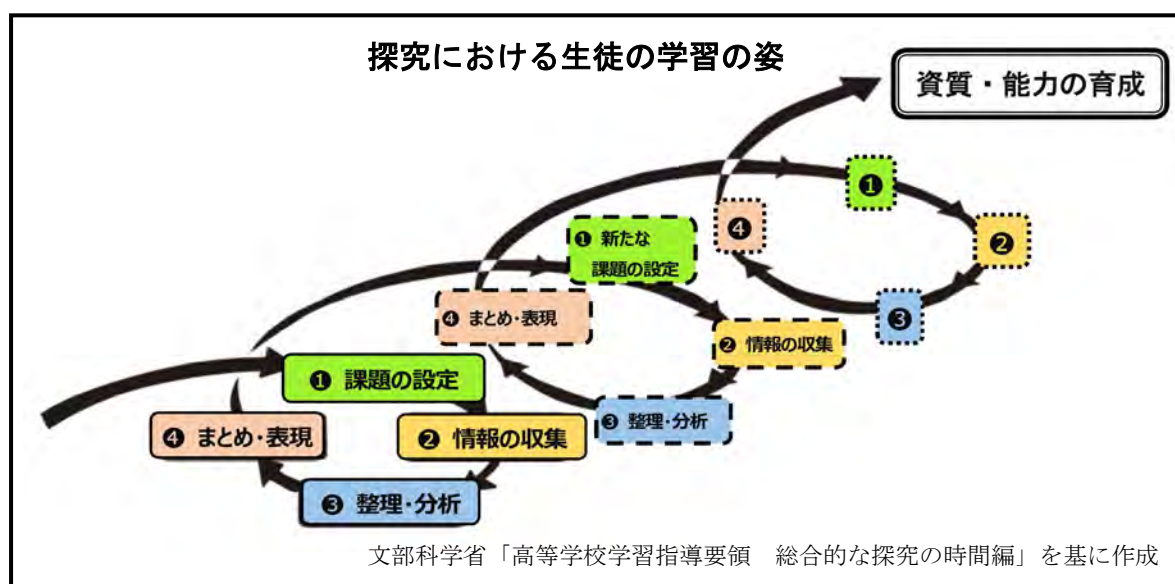
1 総合的な探究の時間

高等学校では、平成 30 年 3 月に新学習指導要領が告示されました。特に、改訂の基本方針では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進があげられています。子供たちが、学習内容を人生や社会の在り方と結び付けて深く理解し、これからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、これまでの学校教育の蓄積も生かしながら、学習の質を一層高める授業改善の取組を活性化していくことが必要とされました。

このようなことを踏まえ、高等学校においては、「総合的な学習の時間」は「総合的な探究の時間」と改められました。つまり、より探究的な活動を重視する視点から位置付けを明確にするための対応です。教科・科目構成の見直しの中でも「探究」は重視され、理数科の「理数探究基礎」、「理数探究」をはじめ、「古典探究」、「地理探究」、「日本史探究」、「世界史探究」が新設されています。

今後、高等学校において「探究」をキーワードにして授業改善を図る傾向は強まるものと考えられます。新しい社会で活躍できる人材の育成に向けて、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、どのように学ぶかが大切です。これからの教育は、教科・科目等の枠を超えた横断的・総合的な学習を行い、探究することをその本質とする総合的な探究の時間の在り方を手本とし、授業改善に努めていくことが求められます。教員一人一人が、これからの高校生に必要な力、すなわち主体的に課題を見つけ、自分なりに解決していく力を育成していくことが求められているのです。

2 探究の過程



<探究の四つの過程>

①課題の設定

体験活動などを通して、課題を設定し課題意識をもつ

②情報の収集

必要な情報を取り出したり収集したりする

③整理・分析

収集した情報を、整理したり分析したりして思考する

④まとめ・表現

気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、表現する

「探究」とは、「物事の本質を自己との関わりで探り見極めようとする一連の知的営み」のことです。総合的な探究の時間の本質は、「探究の過程」です。総合的な探究の時間における学習では、問題解決的な学習が発展的に繰り返されています。

3 研究協力校の実践

「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック（実践編）は、6校の研究協力校の実践をまとめた冊子です。6校の実践は、学校教育目標の実現に向け、各校の強みを生かしたものであり、その切り口は様々です。詳細は、「5 研究協力校における探究活動の取組」（p.5～52）で紹介しています。

各校の実践を大きく次のような構成でまとめてあります。

- 1 学校概要
- 2 教育課程
- 3 「総合的な探究の時間」の推進のための組織
- 4 探究活動の特色・取組等
- 5 評価の工夫
- 6 課題等
- 7 実践1
- 8 実践2

生徒の活動のポイント等

教師の具体的な支援や指導の意図等

評価を生徒に伝えるタイミングやポイント等

※実践は、生徒の活動のポイント等、教師の具体的な支援や指導の意図等、評価を生徒に伝えるタイミングやポイント等をそれぞれ色の異なる吹き出しで記載しています。

4 令和3年度 評価の在り方についての研究

学習評価は、学校における教育活動について、「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えて教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが大切です。

令和3年度は、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするための実践の中でも、特に「評価を生徒にどのように伝えるか（生徒への通知）」に焦点を当てました。研究協力校の先生方には、具体的な生徒の姿を見取るに相応しい評価規準や評価を生徒に伝えるための場面や方法、評価者、回数などの工夫・改善に、学校や生徒の実情に合わせて取り組んでいただきました。

なお、研究協力校には工夫・改善に取り組むにあたって学校の実情を把握していただくために、「総合的な探究の時間における『評価の在り方』確認シート」（p.3）を活用していただきました。このシートは「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編 第10章 総合的な探究の時間の評価」を基に作成しています。

総合的な探究の時間における「評価の在り方」確認シート

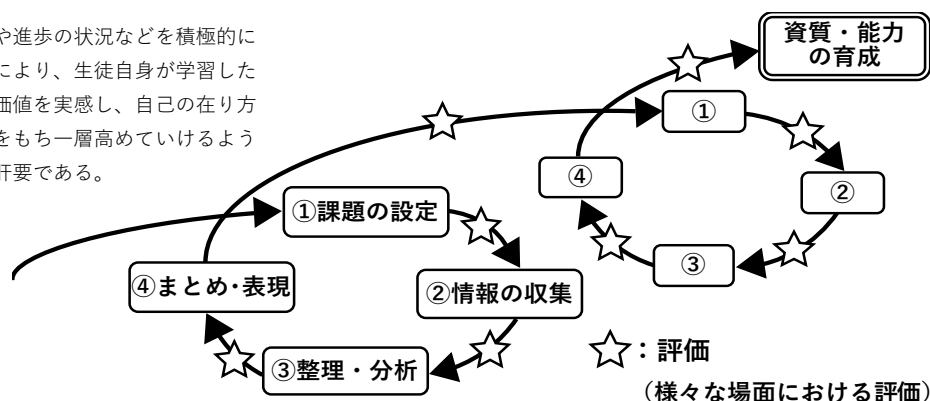
____ 高等学校 ____ 学年 ____ 単元名

《参考》高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「総合的な探究の時間編」p133～138

- ・ 学習評価は、学校における教育活動について、生徒の学習状況を評価するものである。「生徒にどのような力が身に付いたか」という学習の成果を的確に捉えた上で、教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにすることが求められる。
- ・ 総合的な探究の時間における生徒の具体的な学習状況の評価の方法については、信頼される評価の方法であること、多面的な評価の方法であること、学習状況の過程を評価する方法であること、の三つが重要である。

《評価のイメージ》

- ・ 生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価することにより、生徒自身が学習したことの意味や価値を実感し、自己の在り方生き方に自信をもち一層高めていけるようになることが肝要である。



《確認シートの取り組み方》

- ・ 下記の ☐ 枠内に自校の取り組み状況を入力してください。
(入力例 ○：しっかり取り組んでいる ×：全く取り組めていない △：○と×の間)
- ・ この確認シートを総合的な探究の時間における評価の仕組みづくりにご活用ください。

1 生徒の学習状況の評価の充実

- ☐ 学習の過程や成果を評価し、生徒に通知することで、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができる仕組みができている。
- ☐ 学習の過程や成果を評価し、教師の指導の改善につなげ、生徒の資質・能力の育成に生かす仕組みができている。

2 評価方法の工夫・改善

I 信頼される評価の方法であること

- ☐ 指導教員間で評価の観点や評価の規準を確認している。
- ☐ 一単位時間ですべてを評価するのではなく、評価の観点を、単元などの内容のまとまりを通して評価している。
- ☐ 評価に関する仕組みや評価結果を生徒に通知している。
- ☐ 評価に関する仕組みや評価結果を保護者に通知している。

II 学習状況の過程を評価する方法であること

- ☐ 学習状況の結果だけではなく過程を評価している。
- ☐ 生徒の実態や学習状況の把握を基に適切な指導に役立てている。
- ☐ 生徒が学習を振り返る機会を設けている。

III 多面的な評価の方法であること

〔評価方法〕

- ☐ プレゼンテーションやポスター発表などの表現による評価
- ☐ 討論や質疑の様子などの言語活動の記録による評価
- ☐ 学習や活動の状況などの観察記録による評価
- ☐ 論文、レポート、ノート、作品などの制作物による評価
- ☐ 計画的に集積したポートフォリオによる評価
- ☐ 課題設定や課題解決能力をみるような記述テストの結果による評価

〔評価者〕

- ☐ 生徒の自己評価
- ☐ 生徒どうしの相互評価
- ☐ 教師による評価
- ☐ 保護者による評価
- ☐ 地域社会の人々による評価

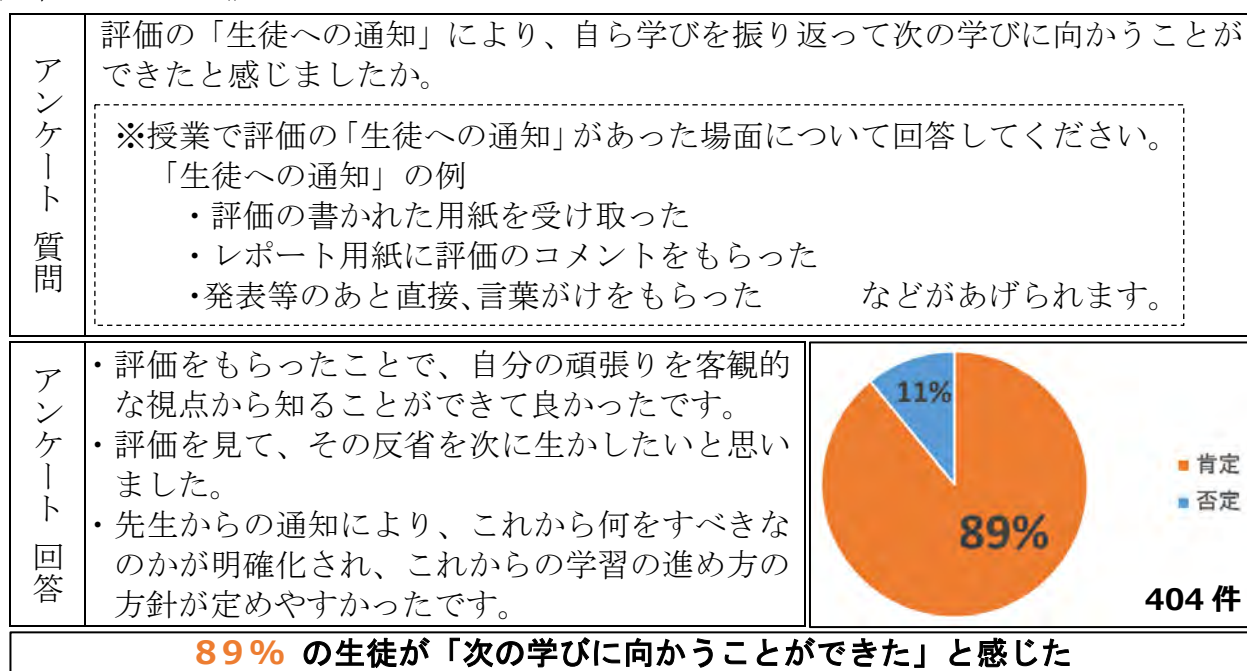
今年度、是非、取り組んでいただきたいことは「生徒への通知」です。生徒が『自らの学びを振り返って次の学びに向かうこと』ができるようにするために重要となってくる部分です。

関連している

〈アンケート分析結果〉

ここでは、研究協力校の生徒・先生方の総合的な探究の時間を通しての感想や課題などを掲載しています。

《生徒アンケート》



《教員アンケート》

【良かった点】

- ・研究が進むにつれ、主体的に取り組む姿が多く見受けられるようになった。
- ・生徒の自信につながっているように感じた。
- ・生徒の多様な視点から物事をとらえ、問いをつくることの大切さを感じた。

【現状の課題】

- ・課題研究の研究テーマを外部(博物館、図書館、店舗等)も視野に入れて決めることで、より研究に対し主体的、意欲的に取り組むことができるのではないかと考えた。
- ・教員間での共通理解と、外部機関との連携の重要性を感じている。現在、本校では生徒一人一人に対応した指導ができており、その成果を今後のキャリア教育に生かしていきたい。
- ・「思考力」「表現力」などを問う時間を要する課題が多くなっているが、コロナによる休校等の措置によって、本来「指導の時間」として確保していた時間が確保できないことが多々あった。生徒は提示された課題を達成しようと努力しているが、課題に追われ時間的にも、精神的にも余裕がない状態が見られた。

研究協力校6校では、「評価を生徒にどのように伝えるか」という取組により、89%の生徒が「次の学びに向かうことができた」と感じています。総合的な探究の時間において、学習の過程や報告書、発表などに見られる学習の状況や成果などについて、生徒の良い点、学習に対する意欲や態度、進歩の状況などを踏まえて適切に評価するとともに、その評価を生徒に伝えることで、生徒が学習したことの意義や価値を実感し、自己の在り方生き方に自信を持ち、一層高めていけるようにすることが大切です。

※ 目標・内容の設定や校内組織の整備、探究の過程の進め方等については、「令和2年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック（理論編）」を参照ください。

5 研究協力校における探究活動の取組

独自のテキストを活用した普通科の実践

学校名 県立長生高等学校

1 学校概要

- ・ 明治 21 年創立（県立移管大正 12 年）
- ・ 定員 全日制（普通科 720 名、理数科 120 名） 定時制（普通科 160 名）
- ・ 独自の教育モデル「長高メソッド」の学力観に則った科学的倫理観・社会的実践力を高める取組学習を実践している。全ての生徒が課題研究に取り組み、報告書と論文を作成している。
- ・ 令和 3 年度から文部科学省より、第 3 期 SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受けている。

2 教育課程

- ・ 総合的な探究の時間に関係する授業について（各学年は 39 単位、1 単位時間 45 分）
- ・ 総合的な探究の時間は各学年 1 単位ずつ。
- ・ 1 年生普通科の総合的な探究の時間の呼称を「SS 総学」とし、生徒自身が目指す教育モデル「長高メソッド」の学力観に則った学習を実践している。全ての生徒が課題研究に取り組み、報告書を作成する。
- ・ 2 年生では、1 年次の学習を生かしゼミ活動を中心に課題研修を進め、研究論文を作成する。
- ・ 3 年生では、これまでの学習の集大成として、学年団で指導にあたり、教科に分かれたゼミ活動を行い、課題研究をまとめ発表している。そのプレゼンを進路決定の際などにも生かしている。

3 「総合的な探究の時間」の推進のための組織

【校内職員体制】

- ・ 総合的な探究の時間委員会・SSH 委員会・長高メソッド編集委員会からなっている。
- ・ 若手教員 10 名程度からなる、長高メソッド研究会（自主的な校内研究組織）を立ち上げた。研究会の目標は「総合的な探究の時間で用いる長高メソッドのテキストをつくる」こと。
- ・ 研究会では授業を企画し、資料の作成等を中心になって行っている。
- ・ 授業は、各担任を中心に学年単位で実施をしている。（学年・学級・ゼミ）

4 探究活動の特色・取組等

（1）【探究活動の特色】

【長高メソッドの学力観】・・・創造力を培う 3 つの科学力

I 学習法の科学：礎となる知識と理解を得る力の育成

「学問の目的とは何か」を考えるとともに、新しいアイデアを提案する市民にとって必要な教養を身に付ける。

II 社会実践の科学：他と協力し目的を達成する力と科学的な倫理観の育成

グループでの合意の形成や役割を分担するための円滑なコミュニケーション能力を高めることで生産的な活動を行う能力を育成する。

III 研究法の科学：課題を発見し探究する力の育成

課題発見・解決型の探究活動を導入する。分野別のゼミ形式で進行し、全員が課題研究に取り組み、探究の進め方、報告書のまとめ方、発表の方法

等を身に付ける。

【「長高メソッド」の教育的手法】

- (1) メタ認知的学力の導入。自己制御の可能な自律的学力を定着させる。
- (2) アクティブラーニング導入による学習の深化。情報伝達・記憶再生型の学習から自発的な課題発見・解決型学習への転換を図る。
- (3) 学際的な課題を扱う。

- ※ 単元構成
- | | |
|------------|--|
| I 学習法の科学 | 礎となる知識と理解を獲得する力の育成
・メタ学力の概念を理解し、全ての教科の学習活動や探究活動にその概念を活用する。 |
| II 社会実践の科学 | 他と協力し目的を達成する力の育成
・文化祭をテーマとしたHR会議の中で、企画を決定するプロセスを学ぶ。また、社会実践力として、集団の中で、他の人々と協調して理想を実現していくことを学ぶ。 |
| III 研究法の科学 | 問題を発見し探究する力の育成
・文献調査レポートと課題探究論文の制作とポスター発表等を行う。 |

(2)【各学年の取組】

<1年次>

①課題の設定

【演習】

- ・ワークシートを使って演習を行うことによって、課題の設定の支援を行う。
- ・演習は、興味を持っていることをテーマに、キーワードからマインドマップをつくる。

※ テーマ設定の3つのポイント

- Point 1 そのテーマについて実際に研究が可能である。
- Point 2 解き明かしたい「もの」「こと」を明確にする。
- Point 3 そのテーマに興味がある。

【研究計画書】

- ・研究テーマ ・研究方法 ・参考文献 ・予想される研究結果

※ 注意事項

- ・ゼミ担当者からの指導助言 → 中間報告に向けての研究
- ・計画的に進めること

※ アドバイスのポイント

- Point 1 テーマが広すぎたり狭すぎたりしないか。
- Point 2 研究テーマが、何について研究するかを適切に示しているか。
- Point 3 そのテーマで論文を書くことができそうか。
- Point 4 研究方法是実現可能か。
- Point 5 研究方法是具体的か。
- Point 6 参考文献にテーマに関係する文献やデータがあるか。

②情報の収集

【文献調査】

- ・文責と出典 ・一次情報と二次情報 ・行う目的 ・方法と特徴 ・注意点

【資料調査】

主な資料の種類とその特徴

A 書籍 B 雑誌（雑誌記事・論文） C 新聞記事 D 統計データ…統計書
E 視聴覚資料

印刷媒体の資料の探し方

A 図書館 B 書店 C データベース

電子媒体で保管されている資料

③整理・分析

【研究法の科学「論文の書き方」】

・アウトラインについて ・アウトラインの作り方 ・論文の書き方

④まとめ・表現

【研究法の科学「中間報告」「ポスターの作り方」】

※ 中間報告の内容をレジメの項目に沿って考えさせることによって発表の流れの作り方をサポートする。

・レジメの項目

A 研究テーマ B 研究の目的 C 研究の方法 D 現在までの研究の進捗状況
E 問題点 F 今後の予定 G 参考文献

・中間報告の流れ

ゼミのメンバーの前 ⇒ 準備したレジメに従って ⇒ ロ頭で報告
⇒ 質疑応答 ⇒ ゼミ担当からのアドバイス

【ポスターの作り方】

※ ポスターの作り方をテキストとワークシートで学び実践する。

発表までの計画

A 準備と発表のための日程確認

B 発表の構成

「序論」「方法・仮説」「結果・検証」「考察」「結論」「参考文献」等を
考え、発表用原稿を作る。

C Bを基にポスター草案をつくる。

D Cを基にポスターを下書きする。

E Dの前で、リハーサルを行い、修正すべき箇所を確認する。

F ポスターや原稿を訂正し、清書する。

G Fで発表の練習をする。

H 質問に対して答えられるようにする。

<2年次>【研究法の科学での実践】

①課題の設定

・探究テーマの検討 ・仮テーマの決定 ・テーマを育てる ・探究仮説の設定

ゼミごとに分かれ、担当教員やゼミのメンバーからアドバイスをもらいながら、テーマを設定していく。

②情報の収集

・文献調査、資料調査等

③整理・分析

・中間発表 ・論文の手直し

担当の先生や同じゼミグループのメンバーからアドバイスをもらい、論文完成に向けて内容を深めていく。

④まとめ・表現

- ・探究論文提出
- ・ポスター発表

(3)【指導の工夫】

⇒ (2) 参照

(4)【探究の四つの過程】

⇒ (2) 参照

5 評価の工夫

- ・年間を通じた探究活動の各場面で3観点3段階のルーブリックを利用して評価を行う。これを基に単元の評価規準・本時の評価規準を作成することで、指導する職員も評価しやすく、指導を受けた生徒も今後の探究活動の改善につながる。

例) 文献調査レポートの評価要領 評価項目と評価規準・評価基準

No.	評価項目	評価規準	評価基準		
			3 (優れている)	2 (良い)	1 (可)
①	情報の収集、整理についての知識・技能	必要な文献を収集し、適切に読み進めている。	課題の解決に必要な資料を収集し、十分な量の文献を正しく読み、適切に整理して示すことができる。	課題解決のための資料を収集し、複数の文献を読んで、整理して示すことができる。	課題解決のための文献を読み、それを示すことができる。
②	まとめ、表現にあらわれる思考力・判断力・表現力	レポートを論理的にまとめ、分かりやすく表現している。	テーマに即してレポートを論理的にまとめ、分かりやすく、説得力を持って表現することができる。	テーマについてレポートをまとめ、読み手にとって分かりやすく表現することができる。	テーマについてレポートをまとめ、表現することができる。
③	課題設定と分析にあらわれる学びに向かう力	問題意識を持ってテーマを設定し、レポートの内容を充実させるように努力している。	テーマ設定に自己と社会に対する問題意識が示されるとともに、レポートの内容が充実し、優れている。	問題意識を持ってテーマを設定し、レポートの内容がよくできている。	自分の関心のあつるテーマを設定し、レポートを書くことができる。

6 課題等

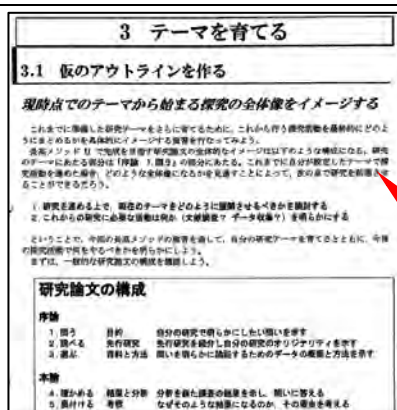
- ・実際に授業で評価シートを利用した上で、さらに評価者が使いやすく、発表者にとって探究の動機づけとなる要素がないか、オンラインでのアンケート等を活用して調べてみたい。

7 実践1

- 1 単 元 名 研究法の科学
- 2 学科・学年 普通科 第2年次
- 3 本時の目標 研究テーマを育てる。
- 4 本時の内容 仮のアウトラインを作成し、これからの研究に必要なことを確認する。また、ゼミのメンバーとアドバイスの交換を行う。
- 5 展 開

活 動 内 容

- ゼミごとに各教室に出席する。
- 本時の内容を確認する。
- テキストワークシート（図1）が手元にあることを確認する。



【図1 長高メソッドより】

- ワークシートに仮のアウトラインを記入する。

- ・テーマ、序論、本論、結論等を記入する。生徒は前時までに研究論文作成に向けて仮のテーマを3つまで絞り、その中から1つ選ぶ。
- ・配付されたワークシート（図2）に作成例が書かれているので参考にする。



仮のアウトライン作成例

研究テーマ 「絶滅危惧種クロマグロを増やすために何ができるか」

- 序論
- 1 問題設定 クロマグロが絶滅危惧種となっている現状とその原因を探り解決策を提案する
 - 2 各節（3～5）の内容の概要
- 本論
- 3 クロマグロの現状
 - (1) 漁獲量の推移
 - (2) マグロの漁法
 - (3) 漁獲量管理の現状
 - 4 クロマグロ減少の原因
 - (1) 乱獲の現状
 - (2) 地球温暖化とマグロの生態
 - 5 クロマグロを増やすにはどうすべきか
 - (1) 漁獲量をどのように管理するか
 - (2) マグロ増殖の可能性を探る
- 結論
- 6 まとめ

Exercise

- Q. 1 現在の研究テーマをもとに、テキストを参考にして、自分の仮のアウトラインをワークシートに書き込んで作ってみよう。

【図2 長高メソッドより】

教 師 の 支 援

- ・ゼミごとに出席確認する。
- ・本時の目標を板書し説明する。
- ・ゼミ担当者は共通して、長高メソッドの指導案により授業を進める。

長高メソッドのテキストには、本時の目標やなぜ、この内容を学習する必要があるかが、明記されている。

- ・「仮のアウトラインを作る」についてテキストを読み、前回作成した仮テーマについて、ワークシートに仮のアウトラインを書き入れるように適宜声掛けをする。

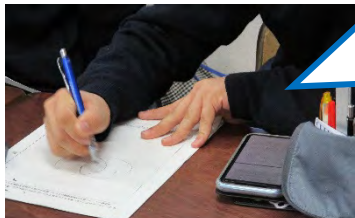


現時点でのテーマから始まる探究の全体像をイメージすることがねらいである。研究を進める上で、現在のテーマをどのように展開させるべきかを検討する。そして、これからの研究に必要な活動は何か（文献調査？データ収集？）を明らかにしていく。

アウトラインの書き方をイメージできるように、テキストに作成例が示してある。

○これからの研究に必要なことを確認する。

- ・「これからの研究を進める上でやらなければならないことは何か」、「研究テーマで修正が必要なのはどこか、どのように修正するか」について気付いたことをワークシート（図3）に記入する。



情報収集では、多くの生徒がスマートフォンを使用している。

- ・仮のアウトラインの記入ができたところで、「これからの研究に必要なこと」、「テーマの修正」について考えてワークシートに書き入れるように声掛けをする。



○ゼミのメンバーと意見交換する。

- ・ゼミのメンバーやゼミ担当の先生からのアドバイスをワークシートに記入する。



- ・研究の進み具合を見ながら、ゼミ内のメンバーと意見交換するように促し、その内容をワークシートに書き入れるように指示をする。



ゼミの担当の先生や仲間たちからアドバイスをもらうことは、自らの研究を進める上で大きな支えとなる。

Q. 2 仮のアウトラインを作ることによって気付いたことを下に書き入れよう。
これから研究を進める上でやらなければならないことは何？

これからの研究を進める上でやらなければならないことを記入

研究テーマで修正が必要なのはどこ？ どのように修正する？

研究テーマで修正が必要なところを記入

Q. 3 Q. 1とQ. 2について、ゼミのメンバーやゼミ担当の先生からのアドバイスを書こう。

ゼミのメンバーやゼミ担当からのアドバイスを記入

【図3 長高メソッドより】

○ワークシートは回収せずにファイルし、今後の探究活動の参考とする。

○まとめを行う。

- ・学習支援ソフトを利用したアンケートに今日の探究の時間の振り返りを記入する。

- ・学習支援ソフトを利用したアンケートに答えるように促す。
- ・次回には「探究仮説を設定する」を実施することを予告する。

振り返りの時間を設けることで次回以降の学習につなげていく。

8 実践2

- 1 単 元 名 研究法の科学 (22 時間)
- 2 学科・学年 普通科 第1年次
- 3 本時の目標 ゼミで自分の文献調査レポートの報告・発表することによって、口頭による発表の技能を身に付けるとともに、ゼミ担当指導者による中間報告評価シートや生徒からのアドバイスメモによって、今後の調査の方向性を明確にする。
- 4 本時の内容 報告者は、前回作成した「中間報告発表レジメ」に基づいて、文献調査レポートの進捗状況について口頭で発表を行い、質疑応答の後、ゼミ担当の指導者から中間発表評価シートを受け取る。また、ゼミ内の生徒からアドバイスメモを受け取る。聞き手は発表を聞いて質問する力を養うとともに、アドバイスメモによって報告者の研究をサポートする。

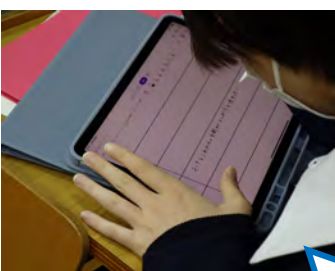
5 評価規準等

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文献の検索や論文の要約の演習を通して、文献の調査方法や論文の読み方を理解している。 様々なシンキングツールやグラフィックオーガナイザーを活用し、自分の考え方をまとめる方法がわかっている。 原稿用紙の使い方や論文にふさわしい文体、事実と意見を書き分ける方法がわかっている。	13 のゼミから自分にあったジャンルを探し、課題を設定している。 探究テーマに即した文献を検索し、必要な情報を収集している。 設定したテーマに関する文献を選んで要約し、問題点を整理している。 課題を文献レポートにまとめ、ポスター発表によって自分の研究を適切な方法で表現している。	探究活動を通して、自分の将来の進路選択について考えようとしている。 中間報告やグループ活動を通して、クラスメイトの意見を参考にしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。 文献調査レポートとその発表を行うことによって、さらに次年度の探究活動への意欲を持つとともに、将来向けてこれからの問題解決に取り組もうとしている。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の文献調査レポートの現状の問題点を理解しているとともに、今後の調査で何をすべきか気付いている。	計画的に探究テーマに即した文献を検索し、必要な情報を収集している。 文献調査レポートの進捗状況をレジメにまとめ、発表することによって、自分の研究の途中経過を適切な方法で表現している。	中間報告やグループ活動を通して、クラスメイトの意見を参考にしながら協働して課題解決に取り組もうとしている。

活 動 内 容	教 師 の 支 援																								
○本時の流れを確認する。 ○生徒は調査テーマについて発表する。 (口頭で2～3分) 発表はタブレットでも見られる。 (令和3年度より1年生は全員タブレットを購入) 	・本日の流れを説明する ・順番に発表させる。 人数の多いゼミはいくつかのグループに分かれて発表させる。 																								
○質疑応答をする。 ○アドバイスメモに評価（アドバイス等）を記入する。	・質問を促す声かけを行う。 状況に応じて質問者になる。 ・中間報告評価シートに評価を記入する。																								
アドバイスメモ  ◆アドバイスメモ 研究法の科学 12. ・コメントを書いたら、切り取って発表者に渡そう。 発表者 _____ さんへ ・良かった点 _____ ・アドバイス _____ 発表者 _____ よりコメント _____ ゼミによってはOneNoteやFormsを使用。  手書きでアドバイスメモに記入。 アドバイスメモを使用し生徒同士の相互評価を行う。主に「良かった点」「(次につながるアドバイス)」を記入する。 ○アドバイスメモを発表者に渡す。	中間報告評価シート ◆中間報告評価シート (該当する項目に○) 発表者: _____ 組 氏名: _____ 評価者: _____ 発表者の文献調査テーマ: _____ 1 文献調査の目的・問いの立て方について <table><tr><th>優れている</th><th>満足できる</th><th>改善を要する</th></tr><tr><td>主題をより具体的に設定し、その中で何を調べたいかを明確にしている。</td><td>文献調査の目的・問いが明確に設定されている。</td><td>何を調べたいかが不明確に設定されている。</td></tr></table> 2 文献調査の進捗状況について <table><tr><th>優れている</th><th>満足できる</th><th>改善を要する</th></tr><tr><td>これまでの文献調査が非常に進んでいる。</td><td>これまでの文献調査が一定の進捗を挙げている。</td><td>これまでの文献調査がほとんど進んでいない。</td></tr></table> 3 今後の調査予定について <table><tr><th>優れている</th><th>満足できる</th><th>改善を要する</th></tr><tr><td>今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関連している。</td><td>今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関連している。</td><td>今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関係が薄い。</td></tr></table> 4 参考文献の質と量について <table><tr><th>優れている</th><th>満足できる</th><th>改善を要する</th></tr><tr><td>参考文献の質・量ともに十分である。</td><td>参考文献の質・量は十分だが、質・量に不足している。</td><td>参考文献の質・量ともに不足している。</td></tr></table> 5 評価者から発表者へのアドバイス 担当指導者は、発表を聞き「中間報告評価シート」に評価を付け、最後にアドバイスを書いて、本人に渡す。 ・中間報告評価シートを発表者に渡す。	優れている	満足できる	改善を要する	主題をより具体的に設定し、その中で何を調べたいかを明確にしている。	文献調査の目的・問いが明確に設定されている。	何を調べたいかが不明確に設定されている。	優れている	満足できる	改善を要する	これまでの文献調査が非常に進んでいる。	これまでの文献調査が一定の進捗を挙げている。	これまでの文献調査がほとんど進んでいない。	優れている	満足できる	改善を要する	今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関連している。	今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関連している。	今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関係が薄い。	優れている	満足できる	改善を要する	参考文献の質・量ともに十分である。	参考文献の質・量は十分だが、質・量に不足している。	参考文献の質・量ともに不足している。
優れている	満足できる	改善を要する																							
主題をより具体的に設定し、その中で何を調べたいかを明確にしている。	文献調査の目的・問いが明確に設定されている。	何を調べたいかが不明確に設定されている。																							
優れている	満足できる	改善を要する																							
これまでの文献調査が非常に進んでいる。	これまでの文献調査が一定の進捗を挙げている。	これまでの文献調査がほとんど進んでいない。																							
優れている	満足できる	改善を要する																							
今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関連している。	今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関連している。	今後の調査の計画が、調査の目的・問いと関係が薄い。																							
優れている	満足できる	改善を要する																							
参考文献の質・量ともに十分である。	参考文献の質・量は十分だが、質・量に不足している。	参考文献の質・量ともに不足している。																							

県立大原高等学校

- ・平成 27 年度に岬高等学校、勝浦若潮高等学校と統合し、県立大原高等学校総合学科として再編。
- ・1 年次は全員が共通の教科・科目を学習。
- ・2 年次から普通・園芸・海洋科学・生活福祉の 4 系列のいずれかを選択。
- ・キャリア教育に重点を置いた探究活動を実施。
- ・3 年間を通して自分の進路（職業）を見据えた実践。

	共通履修科目																													
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1年	LHR	産業社会と人間		国語総合				地理A		現代社会		数学Ⅰ				化学基礎		体育		保健	音楽Ⅰ 美術Ⅰ 書道Ⅰ	コミュニケーション 英語Ⅰ			家庭基礎		社会と情報			
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年	LHR	総合的な探究の時間	現代文B	数学A	体育	保健	コミュニケーション 英語Ⅱ	音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ スポーツA 世界史A	世界史A	物理基礎 生物基礎 地学基礎	物理基礎 生物基礎 地学基礎	英語表現Ⅰ	数学Ⅱ			化学														
									科学と人間生活				生物基礎	フードデザイン		社会福祉基礎		生活支援技術												
														農業と環境	総合実習	農業情報処理	専攻（野菜・果樹・草花）		フラワーデザイン											
									水産海洋基礎 ダイビング	総合実習	海洋情報技術	漁業	資源増殖	海洋生物																
										1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	自由選択 11 12		13	14	15	16	17	18	19	20	21
3年	LHR	総合的な探究の時間	現代文B	政治経済	体育	生物基礎 音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ 英語会話 情報技術 ビジネス基礎 服飾手芸 社会福祉基礎	数学B	物理 化学 生物 日本史B	コミュニケーション 英語Ⅱ	数学Ⅲ			文学研究 日本史A 探究数学 スポーツB 英語研究 情報実務 プレゼン技法 子ども文化		物理基礎 生物基礎 地学基礎 音楽Ⅱ 美術Ⅱ 書道Ⅱ 情報の科学 被服基礎 一般教養															
							古典B			探究数学	日本史A	英語表現Ⅰ					数学Ⅱ ビジネス基礎		国語表現 社会研究 理科研究 英語表現Ⅱ											
							介護福祉基礎										介護総合演習													
							課題研究	総合実習	農業情報処理	フラワーデザイン	専攻（野菜・果樹・草花）																			
							総合実習	海洋情報技術	資源増殖	海洋生物	小型船舶	海洋科学																		

探究活動の取組は、キャリア学習部員 5 名及び各年次から 2 名ずつが企画・立案する。1 年次から 3 年次までの「産業社会と人間」及び「総合的な探究の時間」に関係する全ての授業について、3 年間を通した探究活動の全体を計画する。各年次では、その計画に基づき、キャリア学習部員及び学年主任が中心となり、各年次の教員全体で実際の運営をしていく。

4 探究活動の特色・取組等

(1)【探究活動の特色】

キャリア学習を「社会の中でよりよく生きるために必要な「知識」「技術」「技能」を基にして、「思考」「判断」「行動」ができる「生きる力」を身に付けるための学習活動」と位置付け、3年間の系統的、継続的なキャリア教育の展開と進路実現を学校経営の重点目標の一つに掲げている。3年間のキャリア学習は、1年次の「産業社会と人間」及び2・3年次の「総合的な探究の時間」における探究活動を通じて行われている。

(2)【各学年の取組】

<1年次>

「産業社会と人間」(2単位)の中で、「自分の存在意義の探究」を目指し、適性や進路目標についてじっくり考え、ライフプランを設計する。職業人インタビューと校外学習を学習活動の中心とし、併せて産業体験学習、職業人講話、大学教員による講義などを行う。

<2年次>

「総合的な探究の時間」(2単位※令和2年度)の中で、「自身のキャリア能力の探究」を目指し、進路目標に基づき、職業に必要な能力や適性について考える。インターンシップと校外学習を学習活動の中心とし、併せて進路(進学・就職)ガイダンスなどを行う。

<3年次>

「総合的な探究の時間」(2単位)の中で、「自身のキャリア課題の探究」を目指し、自らの進路目標の実現を図る。進路探究学習と課題探究学習(卒業論文の作成を含む)を学習活動の中心とし、併せて進路希望別学習、地域産業交流学習などを行う。

(3)【指導の工夫】

①探究のスパイラルの設定

年間を通して、一つのまとまりある学習ごとに「ガイダンス(目標、課題の把握)→行動(調査・体験・分析)→発表(まとめ・表現)」という活動の小さなステップを踏み、それをスパイラルとして繰り返すことで学びを積み重ね、深めていく取組をしている。さらに、そのスパイラルは、1年次「職業人インタビュー(課題の設定)」→2年次「インターンシップ(情報の収集・整理・分析)」→3年次「進路実現(まとめ・表現)」という大きなスパイラルを描き、3年間を通じたキャリア学習となっていく。

②ポートフォリオの重視

大原高校では、学びの積み重ねとしてのポートフォリオを重視している。1年次4月のオリエンテーションの際に、授業で用いるファイルを配付し、1年間の学びのすべてを綴じていくことを告げ、ファイルの使い方の趣旨を説明している。ファイルは、授業で用いる(穴の開いた)クリップボードも綴じることができる形式になっている。毎時間配付されるプリントやワークシートなどは、このファイルに時系列により綴じていくことになる。

③きめ細やかな支援

生徒の主体的な活動を支えるために、教員がきめ細やかな支援をしている。

【例】1年次「職業人インタビュー」

- ・事前指導…事業所の情報収集のための検索方法及び調査内容の指導、準備シート(電話挨拶と確認、電話連絡記録票)の用意と指導、実際の電話連絡時のサポート、名刺作成の作業と名刺交換等のマナー指導、準備シート(インタビュー項目)の用意と指導、メモの取り方指導、事業所への依頼状送付、事業所への交通手段の確認指導等
- ・事後指導…メモの取扱指導、お礼状の作成指導(お礼状の書き方、添削、清書まで)、お礼状の送付(学校からのお礼文書も併せ)等
- ・報告書作成指導…インタビュー報告書シートの用意と指導(報告書の作成は『社会と情報』の授業内で行っている)、学級内発表会の進行及びローテーションに関する指導、発表会の会場設営(報告書掲示)、発表会の実施、発表会の事後指導等

※2年次では実際にインターンシップを行うことから、さらに細やかな支援、個別サポートを行っている。

(4)【探究の四つの過程】

①課題の設定

- ・求人票やインターネットの検索により、1年次「職業人インタビュー」・2年次「インターンシップ」を行う事業所を検討する。
- ・事業所へ電話で「職業人インタビュー」・「インターンシップ」の依頼をする。

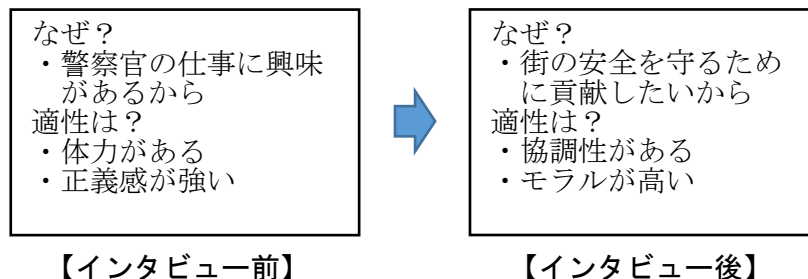
②情報の収集

- ・ワークシートから事業所への電話依頼の仕方を学ぶ。
- ・中間発表会等で上級生から昨年度の様子を学ぶ（異学年交流）。
- ・「職業人インタビュー」・「インターンシップ」の実施

③整理・分析

- ・「職業人インタビュー」・「インターンシップ」によって得た情報・経験を記録することで今後の課題や自己の変容を分析する。

（例）警察署への職業人インタビュー



【グループに分かれて、上級生から昨年度のインターンシップの様子を聞く】

④まとめ・表現

- ・事業所へのお礼状を書く。
- ・報告書を作成する。様式は縦書き4段組あるいは横書き2段組。

5 評価の工夫

- ・生徒が自分自身で目標を立てて行動し、その結果「成功」を手にするという体験を多く得ることができるよう、生徒個々に応じて、教師が意識して声かけをしている。
- ・授業時に、学習（記録）プリントを配付し、観点別に設定した記入欄の内容を、授業ごとに評価・集計している。
- ・ワークシートを活用して授業を展開しており、毎時間ワークシートの内容を評価している。
- ・教師が不安無く探究学習を進め、また、生徒にとって信頼される評価にするため、毎時間、授業略案を作成し、声かけのヒントとなるような規準などを記載している。
- ・教師は、生徒の自己肯定感を高め、自信と主体性をもって学習に取り組むことができるように、具体的な状況を示して声かけをしている。

6 課題等

「キャリア学習のクオリティを向上させること」が現在の本校の課題である。以前は、「キャリア学習は、就職希望の生徒の学習内容である」や「キャリア学習は、必ずやらなければならないことはない」という考えもあったが、現在では、キャリア学習部の教員が中心となってキャリア学習の意義を共有することで、教員自身が自分ごととして考えて取り組んでいる。その意識をどのようにして生徒に伝えるかということが新たな課題となっている。

7 実践1

- 1 単 元 名 インターンシップ 2020
- 2 学科・学年 総合学科 第2年次
- 3 本時の目標 インターンシップでお世話になる事業所への電話での依頼の仕方を知るとともに、実際に練習し、電話での依頼の仕方を身に付ける。
- 4 本時の内容 インターンシップを希望する事業所への依頼の電話のかけ方を知る。さらに、インターンシップを希望する事業所を決める。
- 5 展 開 (2時間連続展開)

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○本日の学習内容について知る。 ○インターンシップについての説明を聞く。  求人票やインターネットの検索によりインターンシップの事業所を探す。 ○インターンシップを行う事業所の連絡先を確認する。 ○電話連絡の仕方についての話を「電話依頼のシナリオ」を見ながら聞く。 ○生徒同士でペアとなり、生徒役、担当者役の役割分担を決め電話の練習をする。  ・ペアを組んで練習をする。	・本日の学習内容について知らせ、本日の学習の見通しをもつ。 ・インターンシップの日程について、インターンシップの概要、電話依頼について説明する。 生徒の主体性を育てるために、生徒一人一人が別々の事業所でインターンシップを行うように指導する。 ・事業所の連絡先がわからず困っている生徒には、教師が連絡先の調べ方を教えたり、一緒に調べたりする。 電話依頼のシナリオを教師が準備し、その内容に沿って事業所とのやりとりを行えるようにする。 電話をかける際の注意事項 ・インターンシップさせていただく立場であることを忘れない。 ・緊張感をもって話す。 ・相手の名前には「様」をつける。 ・相手の話をさえぎらない。 ・ペアを組めないところには教師が入る。

○2時間目の学習内容を知る。 (2時間目) ○各教室にて事業所のある地域ごとに学習する。 ○電話依頼をするときの内容を考える。 ・電話をかける事業所について、パソコンや自分のスマートフォンで調べる。 ○自分で作った原稿を基に2人組で電話練習をする。 ・役割分担をして練習する。 ○今後の学習の見通しをもつ。	・2時間目は、事業所のある地域ごとに分かれて学習することを伝える。 ・原稿作成で困っている生徒には、業種・職種への興味関心などから考えるよう伝える。 ・箇条書きで構わないので、原稿を作り上げること、思いつかない場合には教師に相談するように指示する。 ・今後の学習の予定を説明する。
--	---

～電話依頼のシナリオの一部～

企業：〇〇〇〇株式会社です。

生徒：千葉県立大原高校2年の〇〇〇〇と申します。こんにちは。大原高校では、学校行事として、インターンシップを実施しています。本日は、インターンシップのお願いをしたいと思い、電話をかけさせていただきました。インターンシップの御担当者はいらっしゃいますか。昨年10月にはインタビューでたいへんお世話になりました。

※「インターンシップ」を行うことを事業所側に印象付けるために、意図的に3回入れた。

企業：担当の〇〇〇〇です。

生徒：千葉県立大原高校2年の〇〇〇〇と申します。こんにちは。大原高校では、学校行事として、インターンシップを実施しています。本日は、インターンシップのお願いをしたいと思い、

電話をかけさせていただきました。少しお時間をいただいてもよろしいでしょうか。今度のインターンシップは、〇/〇～〇/〇の3日間を予定しています。感染症の関係で難しいこともあると思いますが、感染予防に注意しますのでぜひよろしくお願いします。私は、〇〇〇〇の仕事に興味を持っています。

御社は〇〇〇〇で～⇒以下は、生徒が調べ、どうしてインターンシップを行いたいかなどの理由を述べる。

それでは、担当教員から挨拶と説明がありますので、電話を代わってもよろしいでしょうか。

(教師に代わり、事業所の方と話す。最後に生徒に再度代わる)

生徒：本日はお忙しい中、お時間をいただきありがとうございました。一生懸命がんばりますので、インターンシップをさせていただけるようによろしくお願いします。本日はありがとうございました。それでは失礼します。

(電話を切る)

1年生の時に事業所に対して、「職業人インタビュー」として話を聞いている。

8 実践2

1 単 元 名 職業人インタビュー

2 学科・学年 総合学科 第1年次

3 本時の目標 職業人インタビューを実施し、憧れの職業人から職業に関するお話をうかがうとともに、自分自身の夢や憧れとの職業適性や地域の社会人とのコミュニケーション力を育成する。

4 本時の内容 企業から直接訪問の許可を得て受け入れの了承を得た生徒は、職場を訪問してインタビューを行う。直接訪問以外の生徒は、「電話」「ファックス」「メール」「リモート」を利用してインタビューを行う。

5 評価規準等

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1) 憧れの職業の基本的な知識を獲得している。 2) 憧れの職業に関する疑問点を解決するための技能を獲得している。 3) 憧れの職業に対する疑問点がインタビューによって解決している。	1) 憧れの職業に就くために必要な課題を質問文としてまとめている。 2) 憧れの職業人へのインタビューを通して、自己の課題解決に必要な情報を得ている。 3) 憧れの職業人にインタビューするために必要な会話内容を準備するとともに、内容を記録・理解している。 4) 憧れの職業人へのインタビューを通して得られた情報や自己の成長を報告書にまとめ、他者に客観的に伝えている。	1) 憧れの職業に就くために必要な能力と自己が有する能力を比較し、将来の職業の選択肢として、可能性があるかまたは、明確になった課題を客観的に捉え、解決しようとしている。 2) 憧れの職業人へのインタビューを状況に応じた言葉を適切に用いようとしている。 3) 憧れの職業人へインタビューを実施するために必要な交通・通信手段を調査・検討・計画するとともに、職場の環境や職業と自己の適性の有無について発展的に考えようとしている。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1) 特になし 2) 公共交通機関の利用や電話・ファックス・インターネットを適切に利用し、職業人インタビューを実施している。 3) 特になし	1) 特になし 2) 事前準備した質問を適切に相手に伝え、必要な回答を得ている。 3) 得られた回答を基により深い会話をしている。 4) 得られた回答を記録・利用し、報告書の作成やその準備を行っている。	1) 得られた回答を基に、憧れの職業に必要な能力と自己の能力を比較し、課題を見つけようとしている。 2) 質問を適切に相手に伝え、自己の課題が解決する回答が得られるように工夫して会話をしようとしている。 3) 交通・通信等の手段を適切に選択利用し、職業人インタビューを計画的に実施しようとしている。

(3) 生徒への声かけ

- ・生徒自身が、情報を収集・分析し、判断するように応援する声かけ
(知識・技能、思考・判断・表現)
- ・生徒自身が、自分の言葉で次の行動（の注意点）を言葉にさせるように促す声かけ
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・生徒自身が、喜びや悔しさを言葉にしたときに、共感する内容の声かけ
(主体的に学習に取り組む態度)
- ・生徒自身が、次の課題に取り組むことができるような、課題確認の声かけ
(主体的に学習に取り組む態度)

6 展 開（6時間連続展開）

活 動 内 容	教 師 の 支 援
〈前時までの活動〉 職業人インタビューに向けての電話依頼練習及び生徒自身で希望の事業所に電話で職業人インタビューの依頼を行う。 インタビュー先の事業所のうち、近隣の中規模病院、官公庁については、生徒からの依頼電話があることを事前に教師が連絡するが、それ以外の事業所はすべて生徒がゼロからの依頼となるため、すぐに門前払いとなるケースも少なくない。 そのため、電話前には「何かあったら電話をすぐ代わるから。」など不安を取り除く声かけを行う。また、断られた場合にも一度電話を生徒から担当の教師に代わり、事業所に学校の取組を伝えることで、事業所から誤解を招くことを防いでいる。  電話の音声をスピーカーにすることで、教師がすぐに対応できるようにしている。 【事業所への電話依頼の様子】	「よく頑張ったね！」 「〇〇していたところが 良かったよ！」  【電話を終えた生徒を労っている様子】
○本日の学習活動を確認する。 ・通常登校の生徒は大講義室に集合する。 ○インタビューの準備を行う。 ・質問項目の確認 ・直接訪問に必要な職場までの行程の確認 (時刻、場所、旅費、持ち物など)	・本日の活動内容を、生徒それぞれの日程を例にして説明する。 インタビューの時刻によっては、「直行」「直帰」「直行・直帰」を認めている。 直接訪問の生徒は直接事業所に向かうため、前日までに個別に説明する。

○職業人インタビューを実施する。

- ・受け入れの了承が得られた生徒
 - 【直接、事業所を訪問する。
 - 【「電話」「ファックス」「メール」「リモート」を利用する。
- ・受け入れの了承が得られなかった生徒
学校でのインタビューに応じた事業所に対してインタビューする。

・事業所によってはインタビューの期日が授業とは別の日に設定されることもある。その生徒は、質問項目の作成やインタビューの練習をする。

生徒全員が購入している名刺サイズのメモ帳を活用している。

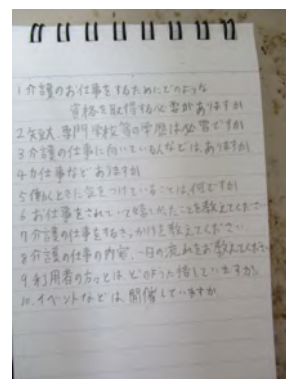
- ・質問内容を事前に記入しておく。
- ・事業所の方の説明の書き取り。



【リモートでのインタビューの様子】



【事業所訪問時の様子】



【質問事項を記載したメモ帳】

○インタビュー結果のまとめと振り返りを行う。

- ・事業所から聞き取った内容を記録したメモ帳を整理する。
- ・パソコン室で、報告書を作成する。
- ・形式はA4 1枚
新聞形式：縦書き 4段組
論文形式：横書き 2段組
(画像を標準2枚使用する。)



【パソコン室での報告書作成の様子】

【例】プロサッカー選手を目指し、有名スポーツ店にインタビューした生徒
〈生徒の質問〉

- ・プロサッカー選手になるために必要なものは何ですか？

〈事業所からの回答〉

- ・協調性
- ・積極性
- ・問題解決能力
- ・英語
- など

振り返りと次の学びに向かう声かけ

- ・「インタビューする前とインタビューした後では、考えが変わったことはありますか？」
- ・「プロサッカー選手になるために、あなたが今後取り組むことは何ですか？書き出してみよう。」

ICT 機器を活用した情報科の実践

学校名 県立袖ヶ浦高等学校（情報コミュニケーション科）

1 学校概要

- ・情報コミュニケーション科による ICT 機器を活用した実践を中心に行っている。
- ・情報コミュニケーション科の「課題研究」として行うため、ICT に関わる探究活動を行っている。
- ・入学時に全員タブレット端末を購入し、探究活動で効果的に活用している。

2 教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年	国語総合				世界史B			数学Ⅰ			情報数理Ⅰ		化学基礎		生物基礎		体育			保健	芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ			情報英語Ⅰ	情報産業と社会		情報コミュニケーション	L	H	R
2年	現代文B		現代社会		数学Ⅱ				選択A		選択B				物理基礎		体育			保健	コミュニケーション英語Ⅱ			家庭基礎		アルゴリズムとプログラミング		情報コミュニケーション実習	L	H	R	
3年	現代文B		地理A		選択C				体育		選択D				選択E		選択F		コミュニケーション英語Ⅲ			課題研究				L	H	R				

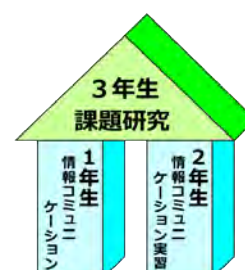
3 「総合的な探究の時間」の推進のための組織

- ・情報コミュニケーション科の職員 6 名とサポートとして社会科、理科、数学科の職員数名で運営している。
- ・1・2 年次は主に学年担当が中心となり進め、3 年次は 8 名で授業を進めている。
- ・「課題研究」についての会議は授業担当者が同室にいるため必要に応じて随時行っている。

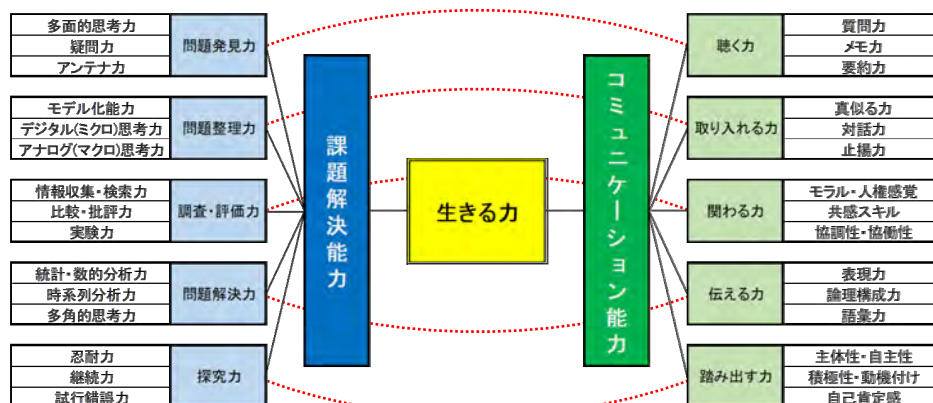
4 探究活動の特色・取組等

(1) 【探究活動の特色】

- ・「課題研究」は、1 年生「情報コミュニケーション」、2 年生「情報コミュニケーション実習」の探究活動と関連させ、1・2 年生の学習で探究活動に必要なスキルが身に付くように計画的に進めている。
- ・1 年生は個人、2 年生は個人と小グループ、3 年生ではグループで探究活動を行う。
- ・1 年生の途中から発表に対しての質疑応答を行っていく。また、発表時の質疑応答の他にクラス全員からの質疑や感想を Web アンケートで収集し、研究内容の不足部分や、発表方法が不十分だったところを確認させ、より深い研究、よりよい発表になるようにしている。また、聞く方にとっても「問う力」が身に付くようにしている。
- ・3 年間で生徒に身に付けさせたい能力を、「課題解決能力」と「コミュニケーション能力」としている。



【課題研究のイメージ】



それぞれの能力は5つの力から構成され、さらに3つの力へ分割される。(左図参照) 左右の項目は同じ段にある項目同士に関連づけてあり、生徒の活動を評価する評価規準として扱えるものとしている。

【「生きる力」につながる「課題解決能力」と「コミュニケーション能力」の詳細】

(2)【各学年の取組】

＜1年次＞ ～情報コミュニケーション～

自己に関わることと他に関わることを交互に取り扱いながら進めている。1年間の学習を通して必要な力が身に付くように授業の流れを組み立てている。

題 材	主な内容	主に身に付けさせたいこと
自己紹介 プレゼンテーション	○AとBではAが好き 2つのものを取り上げ、なぜAが好きなのかを説明する。 ○2番目に好きなもの 1番ではなくなぜ2番目に好きなのかを説明する。	・比較の視点 ・評価の視点
社会問題 プレゼンテーション①	○賛否のあるテーマ 自分の気になった社会問題について賛否両面からメリット、デメリットを挙げ、説明する。	・多角的な見方
職業 プレゼンテーション①	○級友の就きたい職業 客観的に調べられるように級友の就きたい職業について調べ、説明する。	・客観的な見方
社会問題 プレゼンテーション②	○賛否のあるテーマ 社会問題①よりも、適切なデータの収集・整理を行い、質の高いプレゼンテーションを行う。	・多角的な見方
職業 プレゼンテーション②	○自分の就きたい職業と必要な力 職業①を参考に自分が希望する職業について調べるとともに、身に付けなければならない資質・能力を考える。	・自己理解

＜2年次＞ ～情報コミュニケーション実習～

それぞれの活動を通して、1学年で身に付けてきた資質・能力の向上を図りながら、相手を想定したプレゼンテーション能力、表現力を身に付けることを主な目的としている。

題 材	主な内容	主に身に付けさせたいこと
説得 プレゼンテーション	○人を説得するプレゼンテーション 例えば、現金しか使わない人にキャッシュレス決済を使ってもらえるようによさを伝える。	・相手を想定した論理的説明力
修学旅行 プレゼンテーション	○ジグソー法の実践 沖縄の歴史、自然、食、文化等についてポスターにまとめ、ジグソー法を用いてグループごとにプレゼンテーションを行う。	・目的に応じた情報の収集・整理
ゲーム作成	○オリジナルゲームの作成 ゲームをする人の視点に立って魅力のあるゲームを作成する。ゲームの目的、作成理由、工夫点等についてプレゼンテーションを行う。	・他者の視点
ディベート	○テーマに沿ったディベート 事前に資料を交換し、自分達の発表資料、相手方の発表資料を基に作戦を立てディベートを行う。	・情報分析力

＜3年次＞ ～課題研究～

これまで1、2年次で学んできた内容やスキルを生かし、学校や地域の様々な問題に対し ICT を用いて課題解決に挑んでいく。詳細については2（4）【探究の四つの過程】で示す。

(3)【指導の工夫】

①新聞社説の要約と語彙調べ（1年次、通年）

- ・様々な新聞社が Web サイトに掲載している一面コラムを要約する。要約は、コピー＆ペーストを防ぐために紙に記述させる。また、コラムの中に出てくるわからない語句については、各自が調べている。

【身に付けさせたい力】 要約力、真似る力、論理構成力、語彙力、継続力

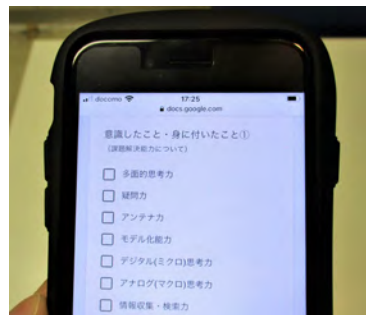
【活用する ICT の説明等】 『iPad』(タブレット端末)

②グループワークでの思考の深め方

- ・KJ 法やブレインストーミング等を活用し、グループでの思考を深める。その際に「ロイロノート」(思考整理・相互通信アプリ)を活用する。「ロイロノート」は文書、画像、動画等をカード化して作業ボード上で配置・結合できるアプリである。他にも教師側からの資料配付・画像共有、生徒側からの課題提出、メンバーへの送信といった機能がある。

③電子アンケートの利活用

- ・電子アンケートを利用すると多くの情報を瞬時に収集、処理することができる。今まで集計に使っていた分の時間をデータの分析や考察に使うことができるので、より深い研究につながっていく。
- ・電子アンケートの機能を生徒の自己評価のツールとして応用する。4 (1) で示した生徒に身に付けさせたい力について、アンケートにチェックを入れて回答することで、評価が蓄積されていく。また、同時にレーダーチャート(グラフ)が作成されるように設定している。自身のタブレットやスマートフォンで回答できるので、自分のタイミングで評価を行うことができる。



【アンケートを評価に活用】

(4)【探究の四つの過程】

①課題の設定

- ・3年次の課題研究の課題設定では、学校や地域に関連のある内容になるように指導している。特に、現在の学校生活での課題や地域の実態等から課題設定を行っている。
- ・グループ(6～7人)での探究活動を行っている。生徒の興味・関心が高いカテゴリをあらかじめ調査し、カテゴリの内容が近いもの同士でグループを作成している。
- ・テーマについて設定理由や目的、実施方法等を授業担当者全員の前でプレゼンテーションを行う。その際、次の視点で指導を行っている。
 - ア 探究活動としてふさわしいか
 - イ 実現可能であるか
 - ウ 1年間の研究として適切か
 - エ 研究したことが学校や地域のためになるか
 - オ 今後に生かせるか 等

指導後、研究課題、研究内容について各グループで再検討を行う。この流れを繰り返し行うことでより質の高い研究となる。課題の設定には十分に時間をかけ、数か月かけて研究課題を設定している。



【テーマ設定のプレゼンの様子】

②情報の収集

- ・課題が決定したら、担当の職員を決める。担当の職員は各グループの進捗状況について、毎週報告させ、進捗状況によって研究の方向性や内容等について助言を行う。

③整理・分析

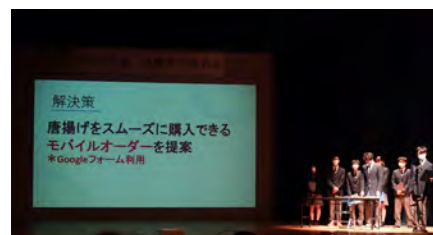
- ・中間発表はポスターを作成し、中学生への模擬授業に合わせてポスターセッションを行っている。発表後の質疑や Web 上での質疑等を踏まえ、研究の足りなかった部分や上手に伝えられなかった部分等について、追加研究や発表資料の手直しを進めていく。



【中間発表会の様子】

④まとめ・表現

- ・修正を加えたものを再度ポスターにまとめ、研究発表会を行う。発表会は1・2年生も参加し、学科全体で行っている。発表資料は事前に配付し、質疑応答が活発になるようにしている。
- ・発表形式は、ポスターセッションやオーラルセッションを想定し、その年の状況を踏まえ、担当教員の会議によって決定する。
- ・研究発表後は各自で卒業論文として、レポートにまとめる。自分の言葉で研究をまとめることで研究の振り返りを行う。



【令和3年度の研究発表会の様子】

5 評価の工夫

項目	評価者	観点	工夫等
プレゼンテーション	・生徒の相互評価 ・教員	・発表態度、方法、内容は適切か ・資料は見やすいか	・電子データ（スプレッドシート等）に評価を入力することで集約が簡単になる。 ・入力する評価は、点数だけでなく疑問やアドバイス等も含んでいる。 ・個別に集約した評価は、紙媒体で生徒へフィードバックする。（電子データのままで、クラス全体を一覧できてしまい不適であるため。）
ポスター	・他クラスの生徒 ・担当外教員 ・地域の方々	・目を引くものか（アート志向） ・内容が伝わるか（デザイン志向）	・文化祭で展示し、全生徒、全教職員が観て評価できるようにする。（一般公開ができるときは、地域の方々も対象としている。） ・評価はQRコードを読み取ってもらい、電子アンケートで回答してもらう。 ・「袖ヶ浦市」をテーマとしたポスターは、市立図書館と連携し、期間限定で展示してもらった。その際に、上記の方法で地域の方々にも評価してもらった。
活動の振り返り	・自己評価 ・生徒の相互評価 ・教員 ・保護者	・課題解決能力が身に付いたか ・コミュニケーション能力が身に付いたか	・活動の自己評価（記録）がいつでもできるように、電子アンケートフォームを利用している。 ・集約した評価（記録）は連動したスプレッドシートに自動でグラフ化されるように設定している。 ・学期末に振り返りの時間を設け、評価レポートを作成する。レポートには自己評価、級友からの評価、教師からの評価が入り、その後、保護者にも通知するとともに評価をもらう形式とした。



【評価は紙媒体でフィードバック】



【市立図書館に展示されたポスター】



【学期末の振り返りの様子】

6 課題等

生徒一人一人が自分の活動記録を取る中で自己評価の蓄積を行えている一方で、教師からの評価を通知する手段が最終的な振り返りに限定されている。学期の途中でも中間評価を知らせる仕組みを作ることが必要である。

成長チャートの記録を蓄積していき、その生徒の目標に即した助言を行い、生徒が多岐に渡って資質・能力を身に付けられるように、シートを生徒面談に活用することも視野に入りたい。



【課題解決能力の成長チャート】

7 実践1

- 1 単 元 名 「へえー」と思わせるプレゼンテーション制作
- 2 学科・学年 情報コミュニケーション科 第1年次
- 3 本時の目標 「へえー」と思わせるプレゼンテーション発表会を通して、発表者は聞き手に分かりやすい発表を、発表者以外の聞き手はしっかりと聞いて、発表者の今後の参考になる評価を行う。
- 4 本時の内容 プレゼンテーションの方法や評価の方法を確認し、実際に制作したプレゼンテーションの発表会およびその評価を行う。

5 展 開

活 動 内 容	教 師 の 支 援												
OPC 室の指定された席に着く。	・着席したら各自パソコンを起動するように指示する。												
○本時の内容を確認する。 ○発表方法について確認する。 ・全員の発表順は事前に決めておく。 ・発表原稿を見ながら発表してもよい。 ・発表の時間は2分以上4分以内にする。 ・前面にあるスクリーンを使って発表する。 ・発表者はレーザーポインターや指示棒、マイクを使ってもよい。 ・発表者以外の聞き手は前面を向いて発表を聞く。 (評価やコメントを入力しない)	～発表にいたるまで～ ・制作時間は4時間 ・最初に基本的なプレゼンテーションソフトの使い方を学習（文字入力、画像挿入、アニメーション等） ・時間が足りない場合は各自 iPad を利用												
○評価方法について確認する。 ・教師は評価表ファイル（表計算ソフト）を各自起動させた PC に送付する。 ・生徒は評価表ファイルを開き、データ入力する。 ・評価項目および配点は以下の通り。 ①スライドの見やすさ・・・（1～5点） ②画像等のバランス・・・（1～5点） ③効果的なアニメーション・・・（1～5点）	プレゼンテーション発表評価について これから、一人一人に作成したスライドを用いて発表してもらいます。発表用原稿に話す内容をまとめて構いません。原稿を見ながら発表して構いません。 原稿の棒読みにならないように、間の取り方、単口にならないように気を付けてください。発表の時間は2分以上4分以内です。この時間におさまっていない場合、当然発表の評価は下がると考えてください。 また、発表者以外の聞き手には、以下のような観点から評価してもらいます。しっかりと聞いて、発表者の今後の参考になる評価をお願いいたします。 ○ 評価データについて 自分のドキュメントにコピーした「pp評価表.xlsx」というデータに入力します。これに毎回評価を入力してもらいます。（全て終わったときに回収します） ○ 評価の入力について 評価表を開き、発表後に評価の入力を行います。 各項目について、入力は次のようになります。 <table><tr><th>スライドの見やすさ</th><th>画像等のバランス</th><th>効果的なアニメーション</th><th>伝わるように聴いていたか</th><th>へえーの回数</th><th>コメント</th></tr><tr><td>1～5</td><td>1～5</td><td>1～5</td><td>1～5</td><td>1～16</td><td>具体的に記入</td></tr></table> 評価項目を事前に配付し確認する。具体的な観点を示すことで生徒同士の相互評価の質を高めることができる。入力した評価は教師がチェックし、最後に発表者へ渡される。（匿名）また、発表者にとっても、よりよいプレゼンをするためのポイントが何なのかを理解させることにつながる。	スライドの見やすさ	画像等のバランス	効果的なアニメーション	伝わるように聴いていたか	へえーの回数	コメント	1～5	1～5	1～5	1～5	1～16	具体的に記入
スライドの見やすさ	画像等のバランス	効果的なアニメーション	伝わるように聴いていたか	へえーの回数	コメント								
1～5	1～5	1～5	1～5	1～16	具体的に記入								

- ④伝わるように話す・・・・・・・・(1～5点)
 ⑤「へえ～」の頻度・・・・・・・・(1～10点)
 +
 コメント

コメントは「思ったこと」や「感じたこと」を相手に伝わるように具体的に入力する。例えば、「よかった」というコメントではなく、「〇〇しているところが見やすくてよかった」等とする。

○プレゼンテーション発表する。※1



○評価を入力する。※2

- ・毎回ファイルを保存する。



- ・全員が静かに前を向いてから発表を始めさせる。
- ・困ったことがあればすぐに対応できるように、近くで待機しながら発表を見る。

○※1、※2を順に繰り返す。

- ・発表内容の例
 - ① 東京ディズニーリゾートの秘密
 - ② 猫の目の不思議
 - ③ 卓球の豆知識
 - ④ MRS. GREEN APPLE の活動休止の理由
 - ⑤ ゲームをすることは悪いことばかりなのか？



○PCをシャットダウンする。

○次回の発表者を確認する。

教師はクラス全員のプレゼンテーション発表が終わるまでは評価や指導は行わない。スライドの字の大きさや色、アニメーション、画像等たくさんの改善の余地があるが、あえて指導せず、生徒からの評価や気付きに期待するようにしている。(評価や指導は全員の発表が終わった後に行う)

8 実践2

- 1 単 元 名 学期末の活動のまとめ
- 2 学科・学年 情報コミュニケーション科 第1年次
- 3 本時の目標 1学期の授業内外での活動(他科目、部活動等を含む活動)において、自己および他者の身に付けたい資質・能力の成長チャートを客観的に分析し、評価を文章で表現できる。
- 4 本時の内容 1学期の間に自分が成長したと感じ、評価(記録)してきた能力のグラフ(自己成長チャート)を見て自己分析する。また、それを他者にも見てもらい、評価をもらう。
- 5 評価規準
 - (1) 単元の評価規準

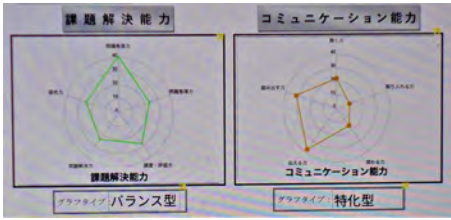
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な知識を身につけている。 ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを効果的に活用している。 ・目的に応じて情報を適切に収集・処理・発信するための基礎的な技能を習得している。 ・探究活動を通して、情報社会における情報技術の役割や影響を理解している。	・情報社会において、社会や他者との関わりで起こり得る課題を発見している。 ・情報を収集・処理・発信する場合には、方法を工夫したり、目的に応じてその手段や方法を改善したりしている。 ・多様な情報が交錯する中で、情報の必要性を判断し、適切に選択している。 ・情報を収集・処理・発信する場合には、情報モラルを考慮している。	・協働的な活動で、課題解決のために他者とのコミュニケーションを積極的に取ろうとしている。 ・身の回りにあるさまざまな課題の解決を通して、情報を主体的に活用しようとしている。 ・情報社会とコンピュータや情報通信ネットワークなどの情報技術に関心を持っている。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・グラフから読み取れるものを記述している。 ・自己評価・他者評価で、適切な行動を提案している。	・読み取った情報から良い点、改善点を考察している。 ・他者に対するコメントに関して、情報モラルを考慮している。	・ワークシートの活動において、自己および他者の成長グラフから主体的に情報を読み取ろうとしている。

(3) 本時の評価基準

ワークシートの記述	観 点	A	B	C
成長グラフからの読み取った分析	主	自己分析、他者分析の両方とも主体的に取り組んでいる。	自己分析のみ主体的に取り組んでいる。	主体的に取り組んでいるとはいえない。
	知	複数の視点で分析している。	単一の視点で分析している。	読み取れていない。
自己分析からの考察	思	改善点を発見し原因を考察している。	改善点を発見している。	改善点が見つかっていない。
	知	適切で具体的な行動を提案している。	適切な行動を提案している。	適切な行動を提案できていない。
他者へのコメント	思	情報モラルを考慮した表現である。	情報モラルをある程度考慮した表現である。	情報モラルを考慮した表現とはいえない。

活 動 内 容	教 師 の 支 援
前時までの生徒の活動 1 活動による経験値の評価の説明を受ける。 学校生活を通して自分が成長したと実感した能力を評価（記録）していく。 (1) 期 間 5月から6月 (2) 場 面 すべての教育活動（授業、学校生活、部活動等） (3) 方 法 電子アンケートフォームを活用して評価を入力する。入力された評価は連動したスプレッドシートに自動でグラフ化される。 (4) 評価項目 課題解決能力とコミュニケーション能力 ※4（1）参照 (5) そ の 他 教師も生徒に対して評価を入力することができる。 2 実際に評価を行う。 評価を行う場面は人それぞれ違うので、自分のタイミングで評価する。	
○各自タブレットを準備する。 ○本時の内容を確認する。 ○ワークシートに成長チャートを貼り付ける。 ・教師からロイロノートを通じてワークシート（PDFファイル）を受取る。 ・自分の成長チャートをコピーし、ワークシートに貼り付ける。 ○成長チャートを分析する。 ・自分のグラフの特徴を理解する。 ・グラフから読み取れることと今後の具体的な行動等をまとめさせる。 普段からこまめに自己評価している生徒のグラフは大きくなる。学期末に分析することで、自身の振り返りと今後伸ばしていきたい能力が明らかになる。	 ・電子黒板を使って説明する。 ・机間指導し、生徒の進捗状況を確認する。 
○ワークシートを他者に評価してもらう。 ・自分のワークシートをロイロノートを通じて他者に送信する。 ・受け取った者は、ワークシートの成長チャートを読み取り、評価コメントを書く。 ・他者から2回コメントをもらったら、ロイロノートを通じてワークシートを教師に提出する。 自分の出席番号に1と2を加えた2名の出席番号の生徒にワークシートを送信する。うまく送信できたか、生徒同士で確認し合う。	 生徒同士の相互評価を行う。級友の成長チャートを見たり、戻ってきた評価コメントを読んだりすることで、自身との比較や今後の目標等が明確になる。また、相互評価を通して、新たなものの見方を発見することもある。
○教師からの総括を聞く。 ・今後の目標や取組、心構え等を確認する。 ・グラフが小さい人へのフォローやアドバイスをを行う。大切なのは今後の取組であることを意識させる。 ・これから情報コミュニケーション科として身に付けたい能力について説明する。 ・担当教員も生徒一人一人にコメント入力し、印刷したものを通知表と共に保護者へ渡す。 ・保護者からも評価（コメント）をもらうようにする。	

PBL (Problem Based Learning) に基づいた探究学習の実践

学校名 県立小金高等学校

1 学校概要

平成 28 年度からスタートした「進学を重視した総合学科」として特に重点を置いている教育活動は、以下の5点である。

- ・学力の向上：質の高い授業、授業力の向上
- ・キャリアデザインの充実と希望進路の実現：3年間を見通した進路計画、PBL の推進
- ・生徒指導の充実：基本的な生活習慣の確立
- ・健康・体力の増進と安全教育の推進：健康に関する自己管理能力
- ・広報活動の充実：積極的な情報発信

平成 30～令和元年度には、「新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト」の研究指定校（国及び県）となった。令和元～2年度には、県から ICT 推進校の指定を受けており、普通教室用に 40 台のタブレット端末が導入された。それに先駆けて平成 30 年度より同窓会の支援を受け総合学科棟用のタブレット端末を 40 台導入しており、合計 80 台が日々の授業で活用されている。また、本校の探究学習は「産業社会と人間」「課題研究」の時間を中心に進められている。

2 教育課程

「人文国際系列（文系コース）」「数理科学系列（理系コース）」「医薬看護系列（医学部、薬学部、看護学部を目指す生徒のコース）」「芸術文化系列（芸術関係等を目指すコース）」の4つの系列を設定している。自分の進路に合致した系統の科目選択ができるよう設定しており、進路や受験する大学の受験科目に合わせて選ぶことができる。

学年	コース	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
1年		国語総合			世界史A			現代社会		数学Ⅰ			数学A			化学基礎		生物基礎		体育			保健		芸術Ⅰ		コミュニケーション英語Ⅰ			英語表現Ⅰ		産業社会と人間			LHR	
2年	人文国際	現代文B		古典B		地理歴史選択			数学Ⅱ			数学B		物理基礎 地学基礎 選択		理科選択		体育			保健		コミュニケーション英語Ⅱ		家庭基礎		英語表現研究		課題		総合		LHR			
	数理科学 医薬看護	現代文B		古典B		地理歴史選択		数学Ⅱ			数学B		物理基礎		理数選択			体育			保健		コミュニケーション英語Ⅱ		家庭基礎		英語表現研究		課題		総合		LHR			
	芸術文化	現代文B		古典B		地理歴史選択		数学Ⅱ			数学B		物理基礎 地学基礎 選択		※△		体育		保健		芸術Ⅱ		コミュニケーション英語Ⅱ		家庭基礎		英語表現研究		課題		総合		LHR			
3年	人文国際	現代文B		古典研究		地理歴史選択			政治経済、数学 研究選択			体育		社会と情報		※☆			総合英語			総合			LHR											
	数理科学	現代文B		※○			数学Ⅲ			体育		社会と情報		理数化学		理数物理、理数生物、 理数地学選択		総合英語			総合			LHR												
	医薬看護	現代文B		※○			※▲			体育			社会と情報		数学研究、理数 化学選択		理数物理、理数生物、 理数地学選択		総合			LHR														
	芸術文化	現代文B		※●			※◎			※◇			体育		社会と情報		芸術Ⅲ、理数生物 選択		総合			LHR														

選 ※△選択科目：理数科目、芸術科目から1科目選択

※☆選択科目：国語、地理歴史、公民、理科から3科目選択

※○選択科目：国語、地理探究、公民、理科から2科目選択

※▲選択科目：古典研究、数学 III、総合英語、理科、家庭から13単位分選択

※●選択科目：国語、地理探究、公民、理科から3科目選択

※◎選択科目：古典研究、芸術科目、家庭、総合英語から11単位分選択

※◇選択科目：数学研究、芸術科目他から4単位分選択

3 「総合的な探究の時間」の推進のための組織

探究学習は「総合学科部」という校務分掌が中心に企画・立案し、年次と協力して実践をしている。総合学科部は 10 名体制で、各年次に担当が配置され年次職員と情報交換しながら「産業社会と人間」「課題研究」等の探究学習を実施している。さらに校内での探究学習の推進のため、ICT 教育研究委員会が設置され、教員自身の学びの場を提供している。

4 探究活動の特色・取組等

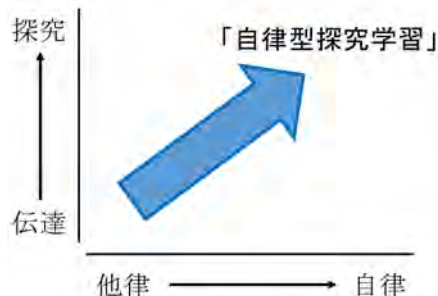
(1)【探究活動の特色】

「総合的な探究の時間」も含めた本校の探究学習の主な目的は「能動的学習者の育成」である。この目的の実現のために、「主体的に物事に取り組む姿勢・能力の育成」「能動的に学ぶことによる認知的・社会的能力、教養、知識、経験等を含めた汎用的能力の育成」「生徒の『自調自学』の実現」を重視して探究学習を推進している。

単にプレゼンテーション能力・スキルを身に付けるだけではなく、自ら問題を発見し、学習により得られた知識を問題解決にどのように生かすか、さらにそれをどう説明するかなどの表現方法も検証し、協働学習を通した「自律型探究学習」により、問題解決のためには何をすれば良いのかを模索するという点に探究学習の主眼を置いている（＝PBLに基づいた探究学習）。

探究学習で最も重視しているのは、「問いをつくる」段階である。そのためには、様々な学問を総合し、広い視野で様々な方向から思考する「発散」と、アイデアを絞り込む「収束」が不可欠である。この「発散」と「収束」を促すワークショップを、探究学習の要所要所で取り入れている。

さらに、平成30年度から「産業社会と人間」「課題研究」の両科目において、探究学習の軸としてSDGsの考え方を取り入れている。このことにより、現代社会の諸課題を把握し、自らの興味関心と結びつけることにより「自分事」として考えつつ探究学習を進めていくことを目指している。



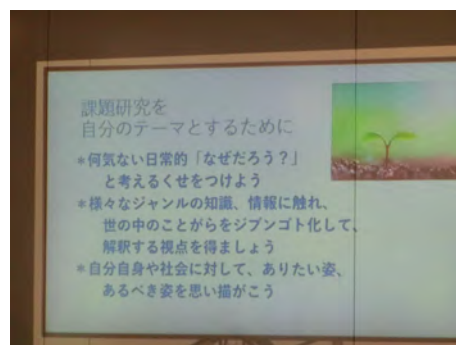
(2)【各学年の取組】

- ＜1年次＞ 自己理解を深め、探究学習における基礎的な力を養う。
- ＜2年次＞ 問題発見・問題解決を軸とした探究学習に取り組む。
(学年末には、ポスターセッション形式での発表会を開催する。)
- ＜3年次＞ 探究学習を進路決定に生かす。

(3)【指導の工夫】

物事を様々な方向から考えることができるようになることが大切であり、課題の設定に重点を置いて指導している。

- ・生徒が自ら考え、行動することができるようになるために、教師は生徒を指導するという意識ではなく、伴走者（メンター）に徹する。
- ・オリエンテーションによる探究の意義の共有
 - 「自ら考え」世の中のことを問題意識を持って観察できるようになろう。観察によって得られた気づきを多様な視点から解釈できるようになろう。
 - 「自ら行動」解釈を踏まえて問題解決のアイデアを発想できるようになろう。
 - 「学問の先」社会とのつながり、夢、将来、働く自分。
自分がこれから社会とどのようにつながるのか、多くのシーンから考えよう。



【オリエンテーションでの説明スライド】

- ・ミライガク（SDGsを取り入れた探究学習）
SDGsの17の目標の達成に貢献するというのではなく、社会に出て活躍する際に必要な思考力を養成するための一つのツールとして、探究学習にSDGsを取り入れている。

〈SDGs フォトコンテスト〉

SDGsにつながってる！と思ったものを関連するSDGsのアイコンと一緒に写真撮影する。

○面白いと感じたり、驚いたり、意外だったりするものを探そう！

○SDGsに関する「問題」ではなく、「改善」を目指しているものを見つけよう！

〈おけやワーク〉

身近にある事柄は、世界の様々な課題につながっている。どんな問題につながっているか、SDGsの目標をヒントに、()の中に語句を入れてつないでみよう！

【例】 Start 「ネットショッピングを控える」 →

週1回 (町の小さな店) で買い物をする → 店の (売り上げが上がる) →

店が (繁盛する) → (働くところが) 増える → (人) が集まる →

(バス) が増える

→ Goal 「バスで病院に行くことができる」



- ・学校外での発表の機会 (みらいをつくる超・文化祭)

〈生徒の設定したテーマ〉

- 「あじさいネギ」と「新松戸レモン」を使ったパンの販売 (市、農家、パン屋の協力)
- 動画を通したヘアドネーションの広報
- 子供食堂への食材の寄付

(4) 【探究の四つの過程】

各過程での取組をすべて説明するのではなく、探究の意義や課題解決のために何をすればよいかなどを生徒に問いながら、自ら課題解決に向かうようにしている。

①課題の設定

「アイデアシート」を活用し、テーマを考える。

アイデアを発散 (より多く出す)



アイデアを収束 (問題解決に向けて取捨選択)
(最初から制約条件があると幅が狭くなる。多様化させることが大切である。)

②情報の収集

調査・情報の収集の目的、対象を明確にし、答えやすさなどから質問項目を精査する。

③整理・分析

情報を精査し、伝えたいことを裏付ける証拠で説得力を高める。

④まとめ・表現

中間発表会 (進捗状況の確認)・ゼミ内発表会・課題発表会 (最終発表会) の3回の発表会を行う。
同じゼミの生徒はMicrosoft Teams でチームを作り、発表時のデータを共有している。

【課題を設定する際に使ったアイデアシート】

5 評価の工夫

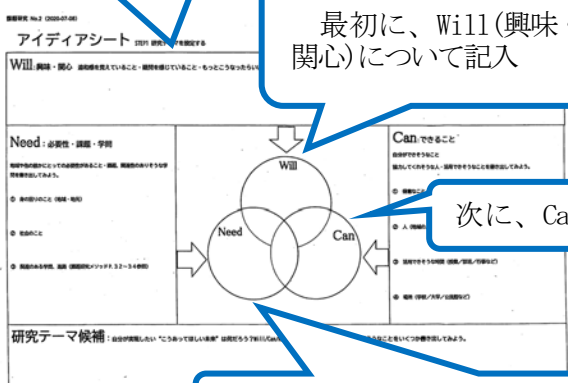
- ・評価者は友人、教師とし、生徒は日常的に意見や評価をもらい、自身の今後の学びに結びつける。
- ・外部講師や授業参観に訪れた先生方に、積極的に伴走者 (メンター) として授業に入ってもらうことで、生徒が意見や評価をもらう場面・回数を増やすことができる。
- ・毎時間、生徒は振り返りシートにより、「本時の目標」「どこまで達成できたか」「振り返り」「次回の目標」を自身で確認することができる。

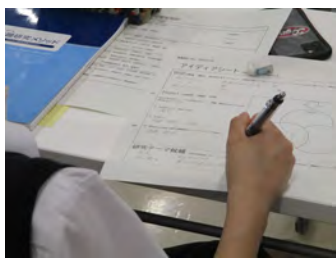
6 課題等

- ・生徒たちはある意味答えをすぐにほしがってしまう。そうではなく思考したり、考察したりする過程をもっと大切にしてほしい。
- ・普段の自分の学びが世の中とつながっていること。学校での学びの中には必要としない物は1つもなく、社会のしくみや諸問題の解決には、単に文理だけではなく、色々な学問の要素が必要であると感じてほしい。

7 実践1

- 1 単 元 名 リサーチクエスションの設定
- 2 学科・学年 総合学科 第2年次
- 3 本時の目標 気になること、自分にできること、社会から求められていることを考えて、探究テーマを設定することができる。
- 4 本時の内容 アイディアシートを使って、課題研究のテーマを考える。
- 5 展 開 (2時間連続展開)

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○授業動画を視聴する。 ・課題研究の進め方 ・研究テーマの立て方 ・先行研究について  ○アイディアシートに記入する。 ・Will(興味・関心)について記入する。 ・Can(できること)について記入する。 ・Need(必要性・課題・学問)について記入する。 ・研究テーマ候補を考える。 ベン図を使い、考えを可視化し、テーマを考える。  最初に、Will(興味・関心)について記入 次に、Can(できること)について記入 最後に、Need(必要性・課題・学問)について記入 ・SDGs や身近なテーマから考える。	・本日の授業のポイントを示し、本時の見通しを持てるようにする。 ・課題研究を進めているうちに出てくるであろう問題とその解決方法を示し、これからの学習に不安を抱かないようにさせる。 ・Will・Can・Need について記入するポイントを説明してから記入させるようにする。 ・思いついたことをできるだけ多く書き出すように指示する。 ・書くことができない生徒には、それぞれの項目で生徒の立場となってアドバイスをする。 ・Will・Can・Need が重なった部分から、テーマの候補を書き出すように伝える。 ・テーマが思いつかない生徒には、SDGs から研究テーマの候補を考えてもよいことを伝える。



○アイディアシートに記入したことを友達と共有する。



友達と情報交換する際の注意事項は、次の2点である。

- ①友達の考えを否定しない。
- ②友達のよい考えは取り入れる。

○テーマ候補を再度見直す。

○本時のまとめをする。

- ・課題研究、探究学習の大切さについて知る。
- ・SDGsに関する動画を視聴する。



食品ロスの削減、高校生による海洋ゴミの回収などの例からSDGsに実際どのように取り組んだらよいかを考えさせる。

(2時間目)

○本時の学習内容を知る。

○アイディアシートに記入しテーマを考える。

- ・友達と相談したり、スマートフォンで調べたりしながら記入する。

- ・テーマを考えた生徒には、候補の中で何を中心に調べたいのか、考えて記入させる。
- ・友達の考えを共有する際の注意事項を説明する。

- ・友達と共有したことをもとに、テーマ候補を見直しさせる。

- ・課題研究、探究学習が大学での学び、将来においても生かされることであると伝える。

- ・これからの課題研究についての見通しを持てるようにする。
- ・本時で学習する内容を話す。今年度は個人で研究することを伝える。

- ・スマートフォンを使って調べてよいことを指示する。
- ・机間指導し、記入できなかったり、困っていたりする生徒を支援する。

「支援」の際の望ましい教師のスタンス

- ①教師自身が答えられない問いこそ歓迎する。
- ②判断・結論を出さない。
- ③粗野な考えを歓迎する。
- ④量を重視する。
- ⑤アイディアを結合し、発展させる支援を。

8 実践2

- 単 元 名 課題研究
- 学科・学年 総合学科 第2年次
- 本時の目標 課題研究のアクションプランを考える
- 本時の内容 探究テーマの思考（発散と収束）
- 評価規準

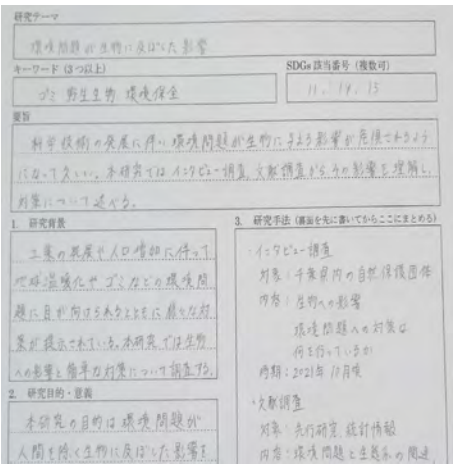
(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
テーマに関する知識をよく学習し、整理している。 明らかにすべき事柄（目的）が明確になっている。 検証可能で具体的な計画が設定されている。	情報から結論に至る過程を論理的に考察し、説明している。 結論に影響を与える様々な事柄に関して多角的に考察している。 学習や議論を通じて、自身の考察を深めている。	様々な手法を用いて的確に研究全体を示している。 口頭で分かりやすく説明することができている 自ら問いを立てることができている。 質問への答弁や討論が的確にできている。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の学習や関連情報の調査を踏まえて検証可能な目的や到達点を明確に設定できている。	取材等で入手した情報結果を学習した知識を踏まえて考察し、意味のある結論に至っている。 考察内容についての的確に議論をすることができている。	研究全体に関して方向性を示し、アクションを起こすことができている。

6 展 開

活 動 内 容	教 師 の 支 援
【前時までの生徒の活動】 - 研究手法の整理 - 今自分が気になっていること（リサーチクエスチョン）は何か - どのような手法で研究を進めていくか - 研究手法の調査・実験の日程、対象、内容、準備、課題・限界 - 研究計画書の作成 - 研究テーマ、キーワード（3つ以上）、SDGs 該当番号、要旨、背景、研究目標・意義、研究手法、主要参考・引用文献	 【生徒の作成した研究計画書の一部】

○マインドマップを用いて思考を発散させる。

- ・現時点で考える研究テーマのキーワードから連想できる語句を書き出す（視覚化する）。

本時の授業のポイント説明

「物事を様々な方向から考えることができるようになることが大切！」

○研究テーマの近い人どうしてバディを組む。

- ・書き出したものをバディ（取り組む生徒同士であり、共同研究者ではない）に説明し、共有する。

バディのメンバー同士は近くでマインドマップを作り、ときにバディのキーワードと線でつながることで、マインドマップによる思考の「広がり」だけでなく「つながり」に気付くことができる。

線で結んだ2つのキーワードをインターネットで検索すると、さらに新しいキーワードを見つけることができる。



【教室の壁を利用してマインドマップを作成している様子】

教師は伴走者（メンター）であることを意識しながら、説明の内容やバディのメンバー同士のやり取り、今までの取組を口頭で評価する。

「〇〇がいいね！」

「ここまでよく調べたね！」

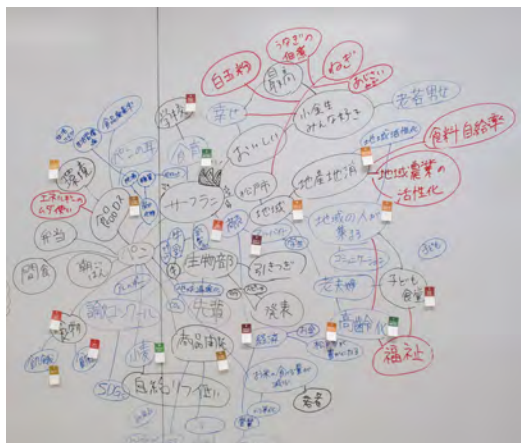
「近くにはこんなものもあるね！」

「このキーワードに関連するこんな資料もあるよ！」

伴走者として、生徒が積極的に思考の発散に向かう後押しをする。

○関係あるキーワードを線で結び、SDGsの何番と関連するか。SDGs付箋を貼る。

- ・発想の転換により、様々な色の付箋を貼れるようにする。



【SDGs付箋が貼られたマインドマップ】



【SDGsの17の目標が印刷された付箋】

後日、マインドマップ作成時の教師のコメントなどの口頭の評価（音声）について、マインドマップの画像を貼り付けた紙に文字でコメントを入れ（視覚化）、生徒に返却し、生徒の手元にコメント（評価）が形として残るようにしている。

○大まかな切り口（研究の方向性）を見出す。

- ・大まかな切り口について、キーワードを組み合わせて検索すると、具体的な取材先や取材先での具体的な質問内容などが見えてくる。

外部の伴走者（メンター）に意見や評価をもらったり、パディ同士で互いに評価し合ったりすることで、収束に役立てる。

収束する段階で、パディのメンバー同士のやり取りや本人の話を聞いたり、マインドマップなどを見たりしながら、「収束」の考え（思考）を生徒と共有する。

○研究の方向性を決定する。

- ・思考の収束によって研究の方向性が決まる。これによりどこに取材・外部連携すると効果的であるかがはっきりしてくる。
- ・生徒たちは外部機関・企業へのアポイントに入る。

どこと外部連携するのが効果的であるかアドバイスする。

日頃から教師自身がアンテナを高くして情報収集することが大切である。

〈生徒の変容（例）〉

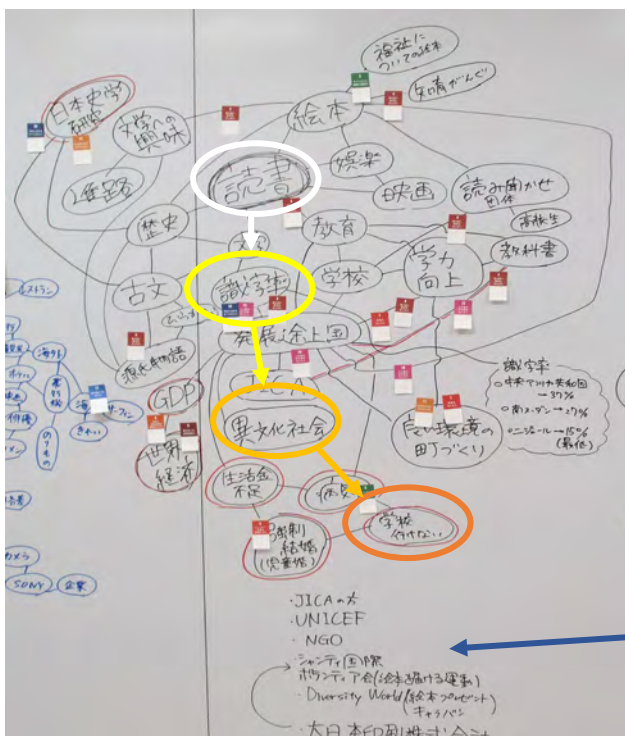
研究テーマ
国語力を向上させる児童期の読書法

キーワード（3つ以上）
読書（本） 小学校 学力向上

SDGs 該当番号（複数可）
4（質の高い教育をみんなに）

要旨
読書と学力向上の関係について、読書の重要性を伝え、その成果より出ている読書法（時間やジャンルなど）を伝えることで実践し、学力向上を図る。

【前時までに作成した研究計画書の一部】



前時までの研究テーマ「国語力を向上させる児童期の読書法」として、小学校の先生や出版社への取材を考えていた。

本時、「読書」からスタートしたマインドマップは、特に「識字率」というキーワードから「異文化社会」、「学校へ行けない」等へと大きく広がりを見せた。

研究のテーマや取材先にとどまらず、今後の興味・関心や進学先の選択肢にも広がりが生じることが期待される。

思考の収束によってリストアップした取材先

【本時作成したマインドマップ】

探究ゼミを活かした実践

学校名 県立浦安高等学校

1 学校概要

2004年に自己啓発指導重点校に指定され、生徒指導を中心に少人数授業や基礎学力に重点を置いた取り組みを実践。2015年に文部科学省よりコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と一緒に教育活動を展開している。2019年クラウドファンディングでタブレットを34台購入。2020年には、各教室にプロジェクター設置し、ICT教育環境の充実に努めている。

2 教育課程

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1 年	ブラッ シユ アッ プ	総 合 的 な 探 究 の 時 間	L H R	国語総合				現代社会				数学Ⅰ			化学 基礎		生物 基礎		保健	体育	芸術Ⅰ		コミュニケー ション英語Ⅰ		英語 表現Ⅰ		社会 と情報				
2 年				現代文 A	古典A		世界史B			数学Ⅱ			理数 選択		理科 選択		保健	体育		芸術Ⅱ		コミュニケーション 英語Ⅱ		家庭 総合							
3 年				現代文B		日本史B			数学A			理科選択		体育		コミュニケーション 英語Ⅲ		家庭 総合		選択①		選択②		選択③							

3 「総合的な探究の時間」の推進のための組織

教務部を中心に各学年から総合的な探究の時間の担当者からなる。1年次の探究ゼミは教務部が中心となり、1学年の職員が各ゼミの先生方と連絡を取り合い、準備等を進める。2年次は学年の進路担当が中心となってインターンシップを行い、進路探究は学年職員で行う。3年次は進路部が中心となって行う。

4 探究活動の特色・取組等

(1)【探究活動の特色】

総合的な探究の時間の中心課題をキャリア教育に置き、3年間を通して計画する。

	1年次	時数	2年次	時数	3年次	時数
4月	進路適性検査 道徳	1 1	進路面談	2	進路説明会 進路面談	2 4
5月	探究ゼミ 道徳	2 2	27歳の自分の名刺 デザイン	2	進路説明会 進路面談	3 2
6月	探究ゼミ 道徳	2 3	27歳の自分の名刺 づくり	2	進路面談	2
7月	探究ゼミ	2	進路面談	2	進路面談	2
9月	探究ゼミ 道徳	2 4	文化祭 浦高 DAZS (進路探究)	5 2	文化祭 進路面談	5 2

10月	探究ゼミ よさこいソーラン 道徳	2 1 1	進路講座 創作よさこいソーラン	2 6	創作よさこいソーラン 進路面談	7 2
11月	探究ゼミ	4	修学旅行探究活動	4	進路面談	2
12月	探究ゼミ	2	進路説明会	2		
1月	探究ゼミ	4	進路面接事前指導	2	進路面談	2
2月	進路説明会	1	進路面接指導	2		
3月	道徳	1	進路面談	2		
	合 計	35	合 計	35	合 計	35

題材	育てようとする能力	評価規準
探究ゼミ	課題対応能力	様々なメディアや体験を通して、設定した課題に関する情報を調査・収集・整理し活用できている。
	自己理解・自己管理能力	自己の個性や興味・関心等に基づいて、よりよい選択をしようとしている。課題に積極的に取り組み、主体的に解決していこうとしている。
10年後の自分	自己理解・自己管理能力	自己の個性や興味関心に基づいて、よりよい選択をしようとしている。課題に積極的に取り組み主体的に解決していこうとしている。
	キャリアプランニング能力	様々な働き方や生き方があることを理解し、自らの将来の職業について具体的な目標を考えている。
旅行行事 探究活動	人間関係形成能力	自己の役割を理解するとともに、相手の立場を考慮して受け止めて協働して取り組んでいる。
	課題対応能力	設定した課題に関する情報を、様々なメディアや体験を通じて調査・収集・整理し活用できている。
創作よさこい ソーラン	人間関係形成能力	自己の役割を理解するとともに、相手の立場を考慮して受け止めて協働して取り組んでいる。
	自己理解・自己管理能力	自己の個性や興味関心に基づいて、よりよい選択をしようとする。課題に積極的に取り組み主体的に解決していこうとしている。
進路説明会	人間関係形成能力	自己の役割を理解するとともに、相手の立場を考慮して受け止めて協働して取り組んでいる。
	キャリアプランニング能力	様々な働き方や生き方があることを理解し、自らの将来の職業について具体的な目標を考えている。

※今後はルーブリック評価を導入し、さらに指導と評価の一体化を図る。

(2)【各学年の取組】

＜1年次＞ ～キャリアをデザインする～

大学の先生や専門家の方々を講師とする「探究ゼミ」を年間10回（20時間）実施する。生徒は自分の興味や関心に基づいてゼミを一つ選択し、年間を通して「問い」をつくり、調べ、自分なりの答えを見だし、それをプレゼンテーションする。1月に各ゼミの選ばれた代表者による学年プレゼンテーションを行い、各ゼミの講師や学年生徒の投票により最優秀賞を選出する。



【学年発表会の様子】

ゼミの分野（令和3年度）

- ・国際関係学
- ・スポーツ科学
- ・観光学
- ・社会福祉学
- ・幼児教育学
- ・経済学
- ・物理学
- ・心理学
- ・起業学
- ・経営学（マーケティング）



【探究ゼミの冊子】

＜2年次＞ ～進路希望を考える～

修学旅行探究は、浦安や東京などのCM作りを行い、民泊でお世話になる方に紹介し、コミュニケーションを図るツールとする。また事後学習で沖縄のCM作りを行う。浦高DAZS（進路探究）では、10年後の自分を想像して、なりたい職業の名刺をつくり、そのために必要な学習をベネッセの自己理解診断を用いて、進路先を調べ自分自身の可能性を見つけていく。最後は、「私の希望進路宣言書」を作成する。

（インターンシップも実施しているが令和2年度は中止、3年度は実施した。）



【進路探究 10年後自分が
なりたい職業の名刺づくり】

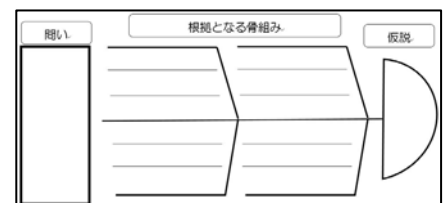
＜3年次＞ ～志望先を決める～

進路探究では、進路指導部の指導の下進路決定をし、その後必要となってくる力を育成していく。

（3）【指導の工夫】

①探究ゼミでの問いづくり（思考ツールの活用）

- ・各分野の講師の先生方がテーマを設定し、問いづくりを行う。
- ・イメージマップの作成。
- ・とりあえずの問いの作成。（Yチャート、マンダラチャートの使用）
- ・仮説を立てる。（フィッシュボーンチャートの使用）



【フィッシュボーンチャート】

②浦高DAZS（進路探究）での名刺づくり

i) 10年後の自分の名刺をデザイン

※AIの普及により、10年後には無くなっている職業等について理解させる。また、今後必要とされる人材や技術等について考える。

※名刺に載せるインパクトのある肩書とキャッチコピーを考える。

※名刺は業者が実際に作成する。（生徒一人100枚ずつ）

ii) 名刺交換会（体育館にて）

※名刺を作成した企業の方を講師として招き、講演会を行う。

※講話や実際の名刺交換の体験を通して自分の職業（進路）について考える。



【名刺交換会の様子】

（4）【探究の四つの過程】

①課題の設定

- ・「こんな大人が身近にいたら最高だ！」をたくさん考えるゲームを導入とし、10年後に自分がなりたい姿や職業について考える。その際に、10年後の社会を想像し、「消える職業」や「なくなる仕事」を理解し、「今後必要とされる人材・技術」を考えながら、自分の進路の課題を設定していく。

②情報の収集

- ・タブレットやスマートフォンの活用（Wi-Fi 環境を学校で整備）
- ・ベネッセ等の教育情報誌
- ・図書室やハローワークの書籍や広告紙
- ・企業や専門家に対してのインタビュー
- ・アンケート法などのマーケティング調査

③整理・分析

- ・付箋紙、拡大ワークシート
- ・ホワイトボード

④まとめ・表現

- ・名刺づくり、交換会
- ・掲示物づくり、レポート作成、発表



【クラウドファンディングで
購入したタブレット】



【アクティブラーニング室は
壁紙をホワイトボードに変更】

5 評価の工夫

(1) 評価の工夫

探究ゼミの評価の工夫・改善点は、「中間評価を行う」、「学年発表での評価の規準をルーブリックとして生徒に周知する」の2点である。全10回のゼミのうち、第5回までの授業で中間評価を出して示し、その後の取組や改善方法等を考えさせ、主体性を育ませたい。また、ゼミ内プレゼンテーションや学年発表会での評価規準を生徒に事前に伝え、課題対応能力や自己管理能力を伸ばしたい。

○中間評価の例（経済学ゼミ）

3 優	2 良	1 可
千葉の落花生の歴史を理解し、フィールドワークを通して、調査・質問票を作成し、農産物の流通と仕組みや品種改良のアイデアを立体的に表現することができている。	千葉の落花生の歴史を理解し、フィールドワークを通して、調査・質問票を作成することができている。	千葉の落花生の歴史を理解し、フィールドワークに参加することができている。

(2) 評価方法

○指導者による評価（大学の先生や専門家の方々による評価）

①情報活用能力について、レポート及びプレゼンテーションの様子から「3 優・2 良・1 可」で評価する。中間評価として、これまでの取組を「3 優・2 良・1 可」と文章等で評価する。

②意思決定能力について、目視による生徒の活動状況から「3 優・2 良・1 可」で評価する。

○生徒による自己評価

③「振り返りシート」を毎時間記入することで自己評価を行う。5段階評価の合計の点数も算出しておく。

○総合評価

①、②、③の評価を基に、ゼミ運営担当教員（浦安高校教員）が総合評価をまとめる。

振り返りシート	ゼミ	月	日		
	1 年	組	番 氏名		
●発見したこと					
●わからなかったこと・困ったこと					
●次回までにやること					
●次回にやること・継続してやること					
自己評価	5	4	3	2	1

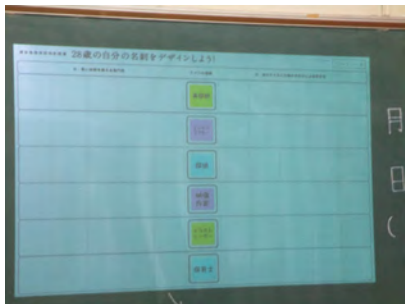
【振り返りシート】

6 課題等

複数の先生方が様々な内容で講義を行う事で、ルーブリックの作成や評価方法に関して課題が多く残っている。また、外部の先生に途中評価をお願いした際に、判断材料が少ない事や、欠席の多い生徒への評価が難しいとのお声をいただいた。今後は、生徒も教師も負担が少なく、前向きに学習に向かう評価の方法を考えて行きたい。

7 実践1

- 1 単 元 名 浦高 DAZS (進路探究)
- 2 学科・学年 普通科 第2年次
- 3 本時の目標 10年後の社会を想像し、自分のあるべき姿について考えさせる。また、10年後の自分の職業の名刺をデザインすることでキャリア発達を促す。
- 4 本時の内容 自分の将来やりたい職業を複数選択し、その職業のメリット・デメリットについて考える。また、10年後の自分の職業の名刺の「肩書とキャッチコピー」を考える。
- 5 展 開 (2時間連続展開)

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○グループごと指定された席に着く。 ○本時の内容を確認する。 ○アイスブレイクを行う。 ・「こんな大人が身近にいたら最高だ!」をたくさん考えるゲーム。 ・付箋に内容を書いたら、声を出しながら机の真ん中に貼っていく。 (付箋1枚につき1項目) ○自分のやりたい職業を考える。 ・自分が将来やりたい職業を付箋に複数(2枚以上)書いて机の真ん中に貼る。 ・全員が出した付箋の中から各自が将来やりたい職業を一つ選び、作業シート(拡大ワークシート)の中央に貼る。 ・友達と重なった場合は、新しい付箋に同じ業種を書き、貼る。	・スライドを使いながら、本時の内容を伝える。特に、次回は実際に名刺交換を行うことを明確に伝える。  質より量が大事で、どんな意見でも受け入れる雰囲気づくりを行う。 ・事前にとったアンケートをもとに作った資料プリントを配付する。 ・スライドを使って説明する。 

○10年後になくなるかもしれない職業を知る。

- ・動画を視聴する。
- ・配付プリントを見ながら、説明を聞く。

今ある職業が10年後もあるとは限らない。また、今はない職業が10年後はあるかもしれない。未来に向けて今から身に付けておく力を考える。

○自分のなりたい職業についてメリットとデメリットを整理、分析する。

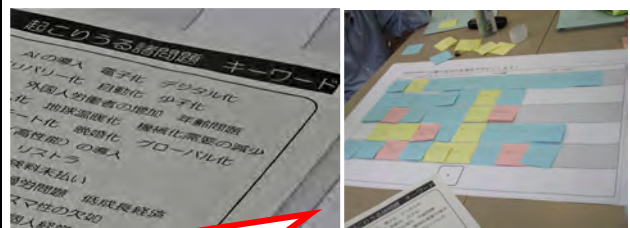
- ・それぞれの業種について考えられるデメリットを各自付箋に書き、作業用シートの右側に貼りグループで整理、分析する。
- ・メリット（高度な専門性や希少性）についても同様に付箋に書き、作業用シートの左側に貼りグループで整理、分析する。

- ・資料プリントを用いて、主な「消える職業」「なくなる仕事」について確認する。

例：ネイリストについて

- ・人工知能やロボット等による代替可能性が低い100種の職業を紹介する。
- ・今後必要とされる人材を紹介する。

- ・配付資料のキーワードを参考にさせる。

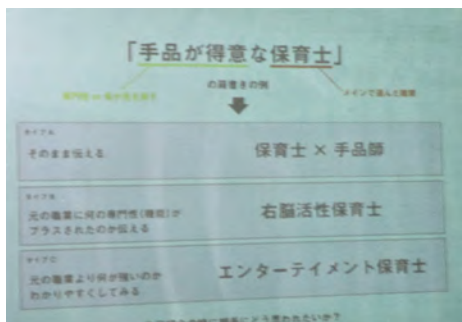


他の人の意見に対しては、「批判厳禁」、「相乗り歓迎」で行う。

(2時間目)

○名刺の肩書とキャッチコピーを考える。

- ・キャッチコピーの例を参考にして考える。



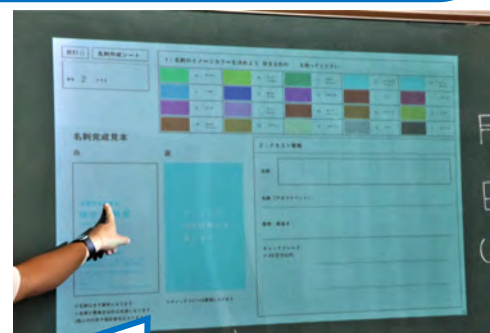
- ・先ほど分析したデメリットを踏まえ10年後も必要とされる技術や人材は何かを考える。
- ・インパクトがあり、相手に関心をもつような目に留まるキャッチコピーを考える。

○名刺作成シートを記入する。

- ・名刺作成シートに以下の項目を記入する。
配色、氏名、アルファベット、職業、肩書
キャッチコピー
- ・アルファベットについては、姓→名の順で書く。

○次回の内容の確認する。

- ・次回は実際に名刺交換を行うことを確認し、名刺作成シートを提出する。



色から受けるイメージも大きいので配色にも気をつかうようにする。

8 実践2

- 1 単 元 名 総合的な探究の時間 『探究ゼミ』
- 2 学科・学年 普通科 第1年次
- 3 本時の目標 ゼミ内で中間発表を行い、受け取った中間評価を今後の探究活動につなげていく。
- 4 本時の内容 ゼミ内の中間発表の準備及び実施
- 5 評価規準等
 - (1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①テーマについて、文献や論文などの検索方法や、調査方法などを理解している。 ②設定した課題に関する情報を、様々なメディアや体験を通して調査・収集・整理し活用している。 ③大学や、企業で活用するレポートの書き方を理解している。	①10個のゼミの中から、興味のあるジャンルを探し、課題を設定している。 ②設定したテーマについて、問いを設定している。 ③できあがった問いについて、根拠のある仮説を立てている。 ④問いをレポートや、パワーポイントなどの成果物によって表現し、自らの探究内容を適切な方法で発表している。	①探究ゼミを通して、自分の進路選択について、考えようとしている。 ②グループ活動を通して、互いの良さに共感しながら話し合い、協働的に課題を解決しようとしている。 ③探究活動をする中で、自身に必要な学習活動を見出し、自らの学びを発展させようとしている。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・探究内容について、動画やインターネットを活用して分析している。 ・レポートの作成について、書き方や表現方法について理解している。	・問いについて、発表の内容について、講師と相談しながら論理的にまとめている。 ・グループ内発表で、他者の発表について、相違点について客観的に分析している。	・グループで、レポート内容について話し合い、担当を決め、互いの良さを発見しながら協働的に活動しようとしている。 ・他のグループの発表を見て、自身の課題の特徴を見出し、発展させようとしている。

6 展 開

活 動 内 容	教 師 の 支 援
前時までの生徒の活動 1 全ゼミワークショップガイダンス（体育館にて20分4回転） 2 所属ゼミ概要説明・グループ分け 3 グループごとのテーマ探し（終わらなかった生徒は夏季休業中に探す） 4 テーマ決定、テーマに沿った資料調査 5 テーマに沿った資料調査・分析	
【物理学ゼミ】	
身近な自然現象を題材として、観測や実験、(数学的な)分析を行いながら、より深いレベルで理解することを目指すゼミ	

○本時の内容を確認する。

○各グループ調査・分析の続きを行う。

- ・役割を分担して、調査・分析を進める。
- ・中間発表のためのプレゼンスライドを作成する。
- ・発表の分担を決めておく。

○中間発表を行う。



○中間評価を受け取る。

- ・講師の先生から中間評価を受け取り（グループ分）、講評を聴く。

○今後の活動の見通しをもつ。

- ・評価を受けて、今後の課題や改善点をグループで共有し、次回の探究活動につなげる。
- ・振り返りシートを記入する。



- ①評価基準（A・B・C）が書かれた紙を事前にグループ分準備しておき、生徒の発表を聞いて該当する評価に○をつけてグループに渡す。
- ②各グループに口頭でも評価を行う。
 - ・良かった所、頑張っていた所
 - ・現在の課題とこれからのアドバイス 等
- ③最後にゼミ全体の評価を口頭で伝える。

※評価を受けて、生徒たちがさらに意欲をもって探究活動を進められるように前向きな声掛けを行う。

【スポーツ科学ゼミ】

スリーボールカスケード（3個のボールのジャグリング）の技を習得するプロセスを通して運動学習について考えるゼミ

○本時の内容を確認する。

○中間発表に向けての準備を行う。



○中間発表を行う。

- ・実際にジャグリングを発表する。

○中間評価を受け取る。

- ・講師の先生から講評を聴く。（全体に対して）

○今後の活動の見通しをもつ。

- ・評価を受けて、今後の課題や改善点を、次回の探究活動につなげる。
- ・振り返りシートを記入する。

- ①スポーツ科学ゼミ全体の取組について口頭で評価を伝える。
 - ・良かった所、頑張っていた所
 - ・現在の課題とこれからのアドバイス 等
- ②特に良かった個別の取組について口頭で評価を伝える。（具体的に）
 - ・〇〇さんは前に出るのを防止するために、壁の前で練習していた。この工夫はとても良かった。
 - ・●●くんは他の人へのアドバイスが上手だった。動きを言葉で伝えることはとても難しいのだがとても分かりやすかった。 等

※全体の前で評価することは、評価を受けた本人の意欲の向上とともに、他の生徒にとっても今後の活動のヒントになる。また、講師の先生が生徒の活動をしっかりと観ているという安心感にもつながっていく。

地域との協働による探究活動の実践

学校名 県立松尾高等学校

1 学校概要

平成 27 年度から令和元年度まで 5 年間に渡り、「グローバルエイジング ～地域から考える高齢者社会～」を研究開発テーマに、文部科学省からスーパーグローバルハイスクールの指定を受け研究開発をしてきた。令和 2 年度から、後継事業として、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（グローバル型）」のアソシエイト校として 3 年間の指定を受けた。グローバルな視点を持った地域を支えるリーダーの育成を探究活動にも含めた形で展開している。

2 教育課程

- ・各学年 30 単位、1 単位時間 50 分。
- ・総合的な探究の時間は各学年 1 単位ずつ。
- ・1・2 年次の総合的な探究の時間を本校では MT0（松尾）の時間として実施している。

3 「総合的な探究の時間」の推進のための組織

- ・令和 2 年度、校内に「MT0 推進委員会」を設置し、全体の進捗状況の確認と連絡調整を図っている。
- ・令和 3 年度から学年ごとに「総合的な探究の時間」の年間指導計画を基に「総合的な探究の時間」の学年担当者が、授業の目的や展開方法について、学年の職員（担任も含む）と、実施前に綿密な打合せをし、進行している。
- ・「総合的な探究の時間」の年間指導計画作成の際は、学年と進路指導部が連携している。

4 探究活動の特色・取組等

（1）【探究活動の特色】

- ・担任・副担任・学年外職員を各時間に割り振り、教科横断的に学校全体として取り組んでいる。
- ・1 年次の総合的な探究の時間が、2・3 年次のグローバルに関する学校設定科目「グローバルコミュニケーション」を受講することにより、さらに学習を深め発進力を強化することで表現力（英語による表現力も含む）を伸ばすことができる。
- ・探究過程のうち「整理・分析」については比較したり関連付けをしたりして「考えるための技法」を自在に活用できるように協同的な活動にタブレット等の ICT 機器を有効活用していた。

（2）【各学年の取組】

＜1 年次＞

1 年生は「フィールドワーク」を通し、地域社会の問題点を見だし、自らの探究テーマを決定し、仮説を立てることにより、探究の基礎を身に付けることに主眼を置いている。

＜2 年次＞

2 年生では 1 年次で見いだした課題を探究し、解決手段を考えさせ、「アクションプラン」を発表させる。

＜3 年次＞

3 年生では 1・2 年次で身に付けた知見を生かして、働く意義を理解させ、自分の進路実現を図る指導を目指している。

（３）【指導の工夫】

- ・ 探究活動に Classi など ICT 関連のツールを積極的に取り入れ、生徒の活動の記録の簡素化を図っている。
- ・ 成果物を評価するのではなく、過程を評価すると共に、先生方は伴走者に徹し、生徒に寄り添い勇気づけ、主体的に学習に取り組む姿勢を育てる。
- ・ 探究活動を通じてグローバルの知識・能力を伸ばすと共に進路指導のキャリア教育もバランス良く、カリキュラムを編成することにより、進路を意識させつつ生徒の自己肯定感を高められる。

（４）【探究の四つの過程】

①課題の設定

MyList100（自分がやりたいことを 100 個書き出す）や SDGs の 17 のリストから、Will（やりたいこと）と Need（社会的に必要とされていること）から Can（実現可能性）を探するという方法でテーマを絞り、課題を設定する。また、課題について「地域」という単語は除いて設定させているが、自ずと「地域」に特化した内容を課題として設定している。

②情報の収集

スマートフォン、図書資料や文献等を活用して情報を収集している。

③整理・分析

探究課題を解決するために、実行できそうな実践を書き出していく。

④まとめ・表現

模造紙にまとめ、ポスター鑑賞を実施する。実施した内容をふまえ、振り返りを行う。

5 評価の工夫

（１）評価における重要事項

- ① 信頼される評価の方法であること
個人によって評価が著しく異なったり、偏ったりしたら信頼される評価とはいえない。あらかじめ、誰でも同じように判断できる評価規準等を設ける。
- ② 多面的な評価の方法であること
個々の成長を多面的にとらえるために、多様な評価を取り入れることが重要である。成果物をそのまま総合的な探究の時間の評価にすることは適切ではないとしている。
- ③ 学習状況の過程を評価する方法であること
学習状況の結果のみを評価するのではなく、過程を評価することが大切である。探究学習では、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」といった過程を経由するため、それぞれの過程において評価するのがよい。

（２）本校における評価方法

- ① 最終的な評価（統括的評価）と途中段階での評価（形成的評価）とその他の評価
 - ア 総括的評価：最終的な評価であり、生徒の到達度を評価するもの。
 - イ 形成的評価：カリキュラムの途中で現状把握を行い、改善していくために行う。
(生徒の探究の現状把握をして、進度や内容を改善するため)
 - ウ その他の評価：生徒自身による自己評価（ルーブリック評価）・他生徒から見た評価。
- ② 生徒による評価と教員による評価
成績を付ける総括的評価を行う主体は教員である。探究学習は生徒の主体的な活動であるので、研究の継続を期待するためには、生徒自身が自分自身を自己評価することもまた大切だと考える。生徒自身が自分の活動を振り返り、総括的に評価するリフレクションの機会を設ける。発表活動を通しての、周囲から（他生徒）の評価のフィードバックを得て、自己評価するための機会を設けることが重要である。

③ 評価における担当職員間の共通理解

- ア 探究方策の獲得に焦点を当てた評価をする。
- イ 教える側で評価観点と評価規準を共有しておく。
- ウ 生徒自身にもあらかじめ評価方法を示しておく。
- エ 最終結果ではなく中途段階で各フェイズの評価を行う。
- オ 仕上がったレポートやプレゼンでの評価だけではない。
- カ 探究活動が、自分の将来と向き合うことにつながったかを観る。
- キ 課題研究に取り組む前と仕上げた後での変化に着目する。

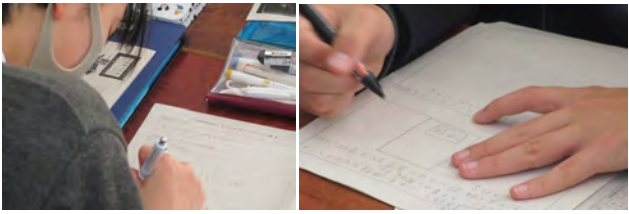
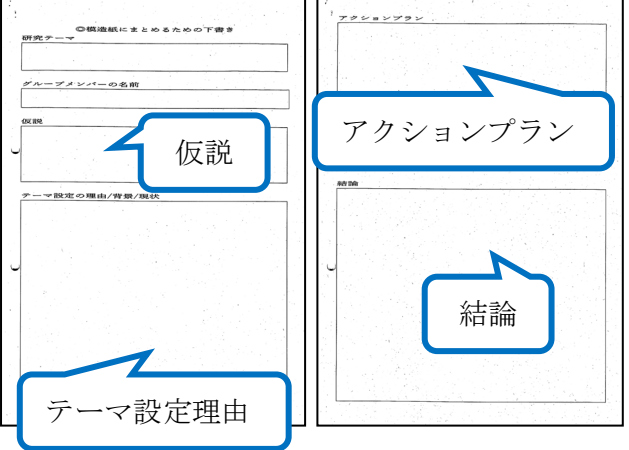
6 課題等

1つは探究学習に対する動機付けである。これはテーマ選びにも直結する問題であり、探究学習を行う上での原動力となる部分でもある。「探究学習をするから、自分の興味があることを探さない。」では生徒は主体的に動かないであろう。本校もコロナ禍以前では地域フィールドワークを実施し、地域の人々や産業に触れることで自分たちの身近な場所にある課題に目を向けることができたが、現在はそれをすることが事実上できない状態にある。つまり何もインプットがない状態から課題を見つけなければならないのである。そのため、初回である今回は、テーマを自分事として結びつけられるように「学校改善プロジェクト」と称して事前にテーマを設定することで動機付けを行った。しかし、これは他人から与えられた課題であり、自らの気づきを目的とする本来の課題発見・解決活動とは言い難い。コロナ禍もまだ続くことが懸念される状況なので、次回もこの形を継続するのか、または生徒に自由に決めさせるのかは今後の課題として早急に検討しなければならないと考えている。

2つ目の課題は活動の形態をどのようにするかである。探究学習の最終形態は個人で全ての活動を行い、自分の考えを人前で発表できるようにすることだと考える。当然そこに到達するためにはいくつものスモールステップを丁寧に指導していかなければならない。今回の活動では4人グループで行ったが、1年次後半の活動は2人のペアで行うことを考えている。発表グループが増えてくるとは、それだけ担任教師が支援しなければならない幅が増えることになる。場合によっては一人では手が足りない場合も想定されるので、学年職員全員、場合によっては他学年を含めた全ての教科の職員が様々な場面で関わる体制作りが必要となってくる。その点に関しては今後学校全体で話し合っていかなければならない課題だと考えている。

7 実践1

- 1 単 元 名 マイプロジェクト
- 2 学科・学年 普通科 第1年次
- 3 本時の目標 総合的な探究の時間にやってきたことを模造紙にまとめよう。
- 4 本時の内容 各グループで設定した研究テーマについて仮説から結論までをプリントにまとめ、発表に向けて1枚の模造紙にまとめる。
- 5 展 開 (2時間連続展開 ※2時間目は20分程度)

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○本時の学習内容を理解する。 ○先輩の事例を知る。 (次ページ図1) ・下書きの書き方がわかる。  ○グループ(4人ずつ)に分かれて、下書きの内容について検討する。 ・研究テーマ ・仮説 ・テーマ設定の理由、背景、現状 ・アクションプラン (探究課題を解決するために実行できそうな実践を考えて書き出したもの) ・結論   	・最初に本時のゴール (下書きを完成させる) を示し、本時に対する目標をもたせる。  ・先輩の事例「コンビニバス・リターンズ」を示し、下書きの書き方を知らせる。  ・グループをまわり、困っているグループに適宜アドバイスをする。  仮説は「〇〇することは可能か」と書くように指示し、結論は「〇〇することは可能(不可能)である」と記述するように説明する。このように事前書き方を指導しておくことで、生徒が見通しをもって研究に取り組むことができる。 ※本来は、実際に検証して結論を導くが、今年度については探究のサイクルを理解することを目的としているため、仮説に対して、結論は「可能である」としてよいとした。 ・プリントの内容をもとに、「コンビニバス・リターンズ」を例に模造紙にまとめるイメージをさせる。

「松尾商店街の活性化」、「空地をつかって山武市のごみを減らすにはどうしたらよいか」、「プラごみを減らすにはどうしたらよいか」等

※生徒が設定した課題は、自ずと地域に特化した課題になっている。

○個人で本時の振り返りを行う。

マイプロジェクト探究学習|振り返りワークシート1

組 班前名

■今日の探究学習での、「チーム(班)の活動について」振り返りそう。

(1) 今日のチームでの活動は、順調に進みましたか。

とても順調に進んだ/まあ順調に進んだ / ちょっと苦労した / なかなか進まなかった

どういふ点からそう感じたのか理由を書こう

(2) 今日のチーム活動で、まず自分が、どんな役割を果たしたか、どういふ点良かったかを書こう。

次に、チームのメンバーが果たした役割とよかった点を思い出して書き出そう。

例) ○さんは、進め方を考えてくれた。 おおまかな構成を提案した。 アイディアをいっぱい出したなど。

そのことによつて、チームが動いたなあと思うことについて、書きだしてみよう。

メンバー	果たした役割(チームに貢献したこと)	良かった点
自分		
さん		

○個人の振り返りをグループ内でシェアする。

- ・ 振り返りのワークシートを配付し、説明をする。

- ・まずは、個人で本時の振り返りを行う。



- ・自分自身のことでなく、チームの活動で、チームのメンバーが果たした役割と良かった点を思い出して書き出し、振り返らせるようにする。

- ・個人の振り返りをグループ内でシェアするように促す。

チームのメンバーで意見交換をし、次の3点をまとめるように指示する。

- ① 話し合いを進める上で続けたいこと (Keep)
② 改善した方がよい点 (Problem)
③ 今後気をつけたい点 (Try)



○学級全体で本時の振り返りを行う。

- ・振り返りを具体的に書くことで次の授業につながることを意識させる。

水 平 餐 館 立 位 和 服 客 車 校 学 幼 小

コンビニバス・リターンズ



昨年わが先輩が提案した「コンビニバス」、「世帯」のfood desertsの現状を踏ま
我々は、内容をブラッシュアップし、有効性を「都営」の施設で再度アピールする

◆仮説

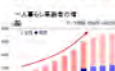
移動と買い物を通じた新たな交通サービスを実施する事によって、高齢者の移動手段の確保と買い物支援の課題を解決する事は可能か？

◆結論

コンビニバスを導入する事で高齢者の移動手段の確保と買い物支援の課題を解決させる事が可能である。

◆日本における「食の砂漠化」

- 今日の日本は少子高齢化が大幅に進んでいる
- 一人暮らしの高齢者も増えている
- 買い物が困難な高齢者が多い
- 自宅から生鮮品販売店舗まで遠い高齢者が全国にも多い。

年齢別単身世帯数(人)	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代以上
男性	1,200	2,500	3,800	4,200	3,500	2,800	1,500	800	300
女性	1,500	3,200	4,500	5,000	4,200	3,500	2,200	1,200	500

◆コンビニバスの利用方法



- 電子タグの付いた乗べ物や紙類物などのコンビニ商品を、買物バッグに入れる。
- 出入りの自動精算ゲートを通ると電子タグの情報と電波で読み取る。
- スマホのアプリ上で支払いが行われる。(高齢者のスマホ普及率は割合を超えてる)



[illegible]

【図1】先輩の事例 コンビニバス・リターンズ

8 実践2

- 1 単 元 名 松尾高校魅力度 UP プロジェクト
- 2 学科・学年 普通科 第1年次
- 3 本時の目標
 - ・グループごとに探究してきた内容をポスターにまとめ、クラス内で発表することができる。
 - ・他のグループの発表を聞いて評価したり、質問したりすることができる。
- 4 本時の内容 「志願者を増やすためにどのように松尾高校の魅力を上げるか」をテーマに各グループごとのポスター発表を行い、聞く側の生徒は発表に対して評価をする。
- 5 評価規準等

(1) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学校の抱える課題とその背景にある地域の課題の関連性を理解し、それらが自分自身の現在の生活と将来に密接につながっていることを理解している。 ②目的に応じて適切な手段を選択し、情報を収集している。	①課題解決に取り組む前に、課題そのものについて分析し、その原因と特徴を明確にしている。 ②収集した情報を組み合わせて、情報源が信頼できるかどうかを十分に検討し、判断している。 ③話す内容の中心となる考えと、その根拠となる情報について、自分たちの考え方や視点を効果的に組み込んで具体例を伝えている。	①課題解決に向けた複数の方法や過程を明確にし、その中で最善のものは何かを検討し、それに向けた準備をしようとしている。 ②他者の意見を受けて、じっくりと考えて自分のアイデアや意見を共有しながら、話合いに積極的に参加しようとしている。 ③自他のよさを認め、多様な意見を受け入れながら、同時に他者の主張に対し、進んで質問したり、意見を言ったりしようとしている。

(2) 本時の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
学校の抱える課題とその背景にある地域の課題の関連性を理解し、それらが自分自身の現在の生活と将来に密接につながっていることを理解している。	話す内容の中心となる考えと、その根拠となる情報について、自分たちの考え方や視点を効果的に組み込んで具体例を伝えている。	自他のよさを認め、多様な意見を受け入れながら、同時に他者の主張に対し、進んで質問したり、意見を言ったりしようとしている。

活 動 内 容	教 師 の 支 援
○本時の流れを確認する。 ・教壇に立ち、代表者発表（最大3分） ・発表後、質疑応答（最大1分） ・評価（1分程度） ○司会とタイムキーパー役が自己紹介する。 ○配付物を確認する。 評価・振り返りシート ポスターのコピー	・本日の流れを説明する。 ・司会とタイムキーパー役の生徒を確認する。 ・配付物を確認させる。 評価・振り返りシート ポスターのコピー
ポスター（コピー） 	発表用のポスターを縮小印刷し、各グループに事前に配付しておく。
○グループごとに発表する。（最大3分） 各グループは発表者に耳を傾けながら、配られたポスターにもよく目を通す。	・発表を聞く態度を意識させる。 「声の大きさ」「聞く姿勢」などを中心に声掛けを行う。
○質疑応答をする。（最大1分） 各発表の「プロジェクト」が『本当に実現可能なのか』という視点で質問を投げかける。	・質問を促す声かけを行う。 状況に応じて質問者になる。

○評価・振り返りシートへ記入する。
(1分程度)

評価・振り返りシート

テーマ	発表者 (発表者名)	ポスターの わかりやすさ	発表内容に 共感できるか	感想・疑問に思ったこと
①	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C
②	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C
③	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C
④	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C
⑤	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C
⑥	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C

「提案内容に共感できるか」という観点から発表内容を「批評」する気持ちで評価させる。(真剣に聞くことが目的)

- ・教師も同じシートに評価を書き込む。

○「評価・振り返りシート」の続きを記入する。(宿題)

- ・評価・振り返りシートの続きの記入について説明する。

「各グループの評価」「自己評価」に取り組む。

- ・「各グループの評価」
- ・「自己評価」(①～③について各2行ずつ記入)
 - ① 発表内容についての改善点
 - ② グループワークの進め方についての改善点
 - ③ 今後の総合的な探究の時間への抱負

○後日「評価・振り返りシート」を担任から受け取る。

評価・振り返りシート

テーマ	発表者 (発表者名)	ポスターの わかりやすさ	発表内容に 共感できるか	感想・疑問に思ったこと
①	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C
②	発表者名	A・B・C	A・B・C	A・B・C

<自己評価> ※①発表内容についての改善点 ②グループワークの進め方についての改善点 ③今後の抱負

① 発表内容についての改善点
② グループワークの進め方についての改善点
③ 今後の抱負

担任からのコメント
発表者名: 発表内容がわかりやすかった。ポスターもよくできている。発表内容について、もう少し詳しく説明してほしいところがあった。発表内容について、もう少し詳しく説明してほしいところがあった。

- ・「評価・振り返りシート」の「担任からのコメント」欄に評価(文章)を記入し、後日、生徒一人ひとりに返却する。

その際の評価材料は、次の3点である。

- ① 「ポスター」の内容、出来具合
 - ② 「評価・振り返りシート」の記入内容(他グループへの評価内容、自己評価等)
 - ③ 「報告書」の内容(※)
- (※) 発表者を含めグループのメンバーが発表までにどのような役割で、どのように取り組んできたのかを記したもの。

担任の評価を記載(基本的には良かった点とアドバイスをそれぞれ1つ記載した。)

おわりに

「令和3年度『総合的な探究の時間』の進め方ガイドブック（実践編）」は、県内の研究協力校6校の協力のもと、研究協力校の総合的な探究の時間における指導体制や指導計画、指導の工夫、評価の工夫等の実践を基にまとめた冊子です。令和3年度は、学習評価によって学習の成果を的確に捉えて教師が指導の改善を図るとともに、生徒が自らの学びを振り返って次の学びに向かうことができるようにするため、特に「生徒へどのように伝えるか」に焦点を当て、学校や生徒の実情に合わせて工夫・改善に取り組んでいただきました。研究協力員の先生方及び授業実践に取り組んでいた研究協力校の先生方に深く感謝申し上げます。総合的な探究の時間の指導において、各学校にて本ガイドブック（理論編）・（実践編）をぜひ御活用いただきますようお願いいたします。

○主な引用・参考文献等

- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編」
- ・「高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総合的な探究の時間編」
- ・『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料【高等学校 総合的な探究の時間】
文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和3年）
- ・「学習評価の在り方ハンドブック高等学校編」文部科学省 国立教育政策研究所教育課程研究センター（令和元年）

研究講師及び研究協力員一覧（敬称略）

○講師

〈令和3年度〉

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 齋藤 博伸

〈令和元年度・2年度〉

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官 渋谷 一典

〈令和元年度〉

文部科学省初等中等教育局視学官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官・学力調査官
藤枝 秀樹

○研究協力校・協力員

〈令和元年度～3年度〉

県立長生高等学校 教 諭 片岡 勝規

県立大原高等学校 主幹教諭 両角 治徳

県立袖ヶ浦高等学校 教 諭 長谷川 翼（令和2～3年度）

教 諭 大河原貴徳（令和元年度）

〈令和2年度～3年度〉

県立小金高等学校 教 諭 椿 仁三千

県立浦安高等学校 教 諭 大平 豊

県立松尾高等学校 教 諭 林 潤一郎

○研究担当職員

〈令和3年度〉

千葉県教育庁教育振興部学習指導課高等学校指導室	指導主事	小山 和紀
千葉県総合教育センター カリキュラム開発部	部長	丸山 誠一
研究開発担当	主席研究指導主事	福中 義宏
研究開発担当	研究指導主事	中川 航太 (主担当)
研究開発担当	研究指導主事	堀口 光
研究開発担当	研究指導主事	竹政 崇典

〈令和2年度〉

千葉県教育庁教育振興部学習指導課高等学校指導室	指導主事	長嶋 健二
千葉県総合教育センター カリキュラム開発部	部長	朝倉真由美
研究開発担当	主席研究指導主事	福中 義宏
研究開発担当	研究指導主事	吉田 康德 (主担当)
研究開発担当	研究指導主事	山川 亮
研究開発担当	研究指導主事	竹政 崇典
研究開発担当	主査	尾高 信行

〈令和元年度〉

千葉県教育庁教育振興部学習指導課教育課程室	指導主事	簾 雄太
千葉県総合教育センター カリキュラム開発部	部長	古市 利行
研究開発担当	研究指導主事	黒川 健二
研究開発担当	研究指導主事	高木 葉子 (主担当)
研究開発担当	研究指導主事	米本 英裕
研究開発担当	研究指導主事	神澤 光
研究開発担当	主査	尾高 信行

研究報告 第450号

研究報告 「総合的な探究の時間」の進め方ガイドブック（実践編）

令和4年3月

編集発行者 千葉県総合教育センター所長 酒井 昌史

発行所 千葉県総合教育センター

〒261-0014 千葉市美浜区若葉2丁目13番地

TEL 043 (276) 1166 FAX 043 (272) 5128
